

# 婦人供



第六卷 第十一號

東京 弘道館

省

婦人と子ども第六卷第拾一號目次

卷首

王様の御通り……………寫眞版

婦人と子ども

幼児教育と自然主義……………湘南生…一

日本の家庭と英國の家庭

女高師教授 宮川壽美子…二

音樂管見……………女子音樂學校長 山田源一郎…六

下婢と兒童……………女高師教授 東基吉…九

實驗上の育児……………醫學博士 瀨川昌耆…二

一つ身袖無被布……………第一高女教諭 岡本ちか子…二五

短篇小説「小春日」……………堀内新泉…二六

りつとあさよ……………朝露生…二三

此頃の料理……………石井泰次郎…二六

俳句……………鹽野奇零…三〇

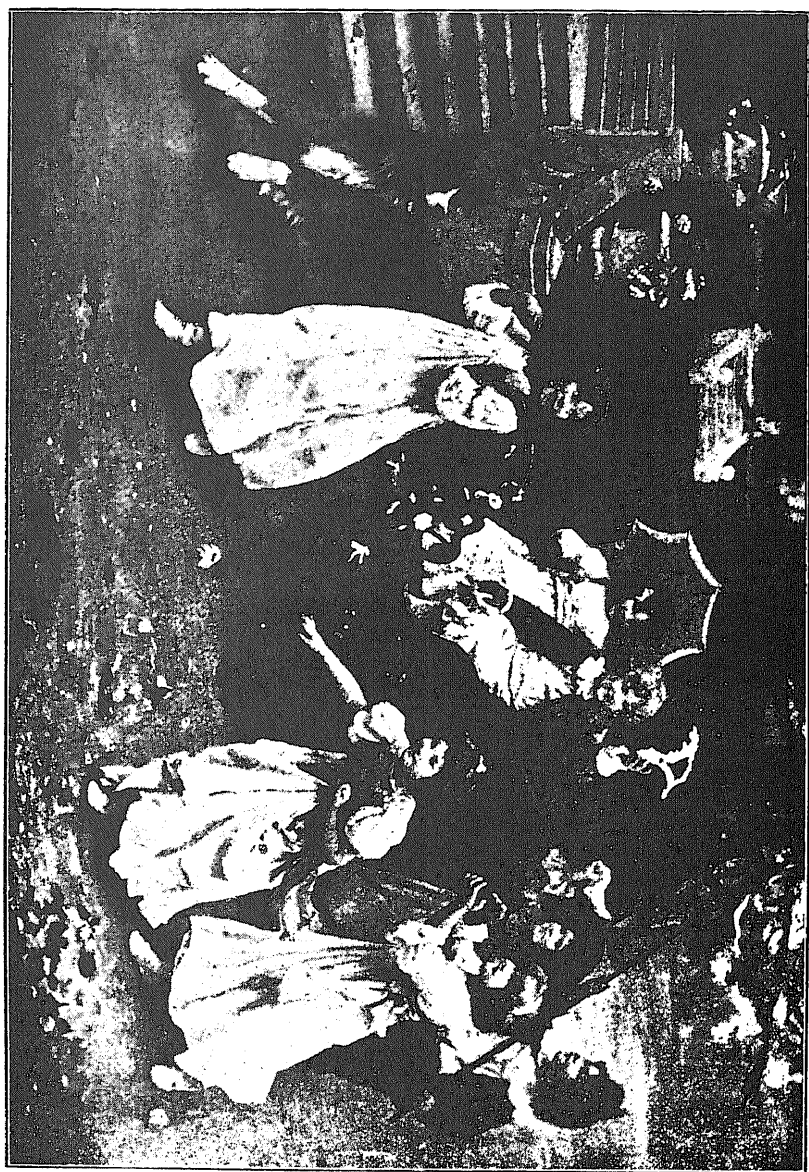
婦人と親族法……………太田龍東…三三

名士の家庭……………龍東生…三四

雜錄 數件

子ども

よわ虫太郎……………彌彦…一



## 會員募集

幼兒教育の必要にして缺く可からざるは今更喋々を要せず。本會は去る明治三十四年の創立以來孜々として斯業の爲めに常に科學的解決を與へんことを期せり。時恰も戰後に會し大に發展の必要あり。茲に會務を擴張して將に畫する所あらんと欲す。既に幼稚園事業にたづさはれる人は勿論幼兒教育に熱心なる諸君は奮つて御入會あらんことを希望す。

本會規則並に入會手續は裏面を御覽

女子高等師範學校附屬幼稚園

明治三十九年十一月

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會



# フレーベル會規則

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一 總會 毎年四月二十一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參列品、幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ

一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一、十日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協賛、宣傳等ヲ行フ

一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス

一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

第七條 會長 一人會務ヲ總理ス  
幹事 一人會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス  
主幹 十人會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス  
評議員 若干人重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ

第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第九條 主幹ハ會長ノ特選トス

第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期ヲ二年トス但シ毎年半数ヲ改選スルモノトス

第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルベシ

第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

## 會 告

一、本誌發送上差支不尠候に付會員にして移動せられたる節は直ちに本會會計部(東京京橋區南大工町弘道館)へ向け御通知願度候也

若し轉居先の御通知なき爲め本誌發送戻りの分は無致方次回よりの發送中止可致候也

一、會費は必ず本會會計部へ向け拂込なる、様願度候其際には自何年何月、至何年何月分會費 何圓何十何錢也と明記相成度候也

會費領收は從來の如く毎回本誌へ掲載可致候に付若し金額月日等相違あらば本會々計部へ御通知願度候也

東京市京橋區南大工町一、弘道館内

フレーベル會會計部

# 優等深大金色罐入

登錄商標 蜂印靴墨

香川縣博覽會に於て金牌を受領す内國製  
產品評會に於て一等褒狀受領第五回内國  
博覽會に於て褒狀を受領す



優等鷹印靴墨本舖

東京淺草區  
諏訪町

松崎商店  
特電話下谷千八百十八番

一本品の如き高  
價ありと雖も  
品質良好に  
し品入大に  
鑑入のば  
比較的廉價  
なり本品は  
柔軟に皮  
を柔くは  
且又耐久  
水に耐え  
用すに少  
澤美なれ  
光顯す

麝香とスミレとばらの香料を合む

## 小判后

東京本町三寶堂發賣本電二五七

十二錢 二十錢

數年難治の慢性胃病を根治し  
消化機能と強壯健全になす

**胃根病根治**  
（即ち胃腸病）

其の如き一時おさるムネスカシの舊式胃薬のみにして未だ嘗て根治的に其病の基因を斷つ真薬あるを見ず、本劑は獨り國名大醫ノール氏處方に基づき本邦胃病患者に適切な最新有効薬を配合し百方實驗其奏効顯著なるを確證發せし最も進歩せる完全なる新薬にして、數年難治の頑固慢性胃病にても根柢つて根治し消化機能健全に強壯ならしめ食慾を促進し便通を快くし氣力を壯にし精神を爽快活潑にする空前の完全最新薬なれば從來種々維多の胃病薬を用ひて効なく多病苦に呻吟せる患者は一日も早く本劑を服し病根を斷絶し無病強健の大幸を得られ、輕症は壹劑重症は貳劑慢性症は參劑にて根治確證す（藥價）壹劑四拾貳錢 貳劑八拾錢 參劑壹圓拾錢 郵券代用貳劑増し

**新論 胃根病根治 白色新劑**

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黒き男女にても特別製貳 純白色に變化し麗美の容貌となる劑を用ひれば忍び肉體 多の色白薬を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に變烈なる特別を覺ゆ貴に奇効顯著の確證新劑 價は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹圓七拾錢

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房  
二藥專賣元 軒町拾九番地

月やくもる  
本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も心ず忽ち快通流

下する傳刺あり本劑を分分を用ゆれば三ヶ月間滞りたる月經にて血塊つ月經不通月經不順に流經する子宮病血の道全治惡血毒血を掃するも能證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著無害なり婦人諸君安心して試薬あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓貳錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓拾錢（注意）本劑の大盛々怪しき無特類似偽藥類はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」



**わきがが**  
根治確證 新發見藥

本劑は腋部汗毛を盡せし如何程痒言て根治し決して再發或は他種刺刺の慢性わきがにても試み本劑を脱せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分四拾錢頑固刺刺の慢性根柢根治分貳圓貳拾錢若金即刻發藥す郵券代用必す二劑増の事

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房  
二藥專賣元 軒町拾九番地  
(電話下谷五四六番)



前付の六

10

▲社會は如何に家庭問題に注意するか  
切橋純子 遠山博士 川上貞坂 島崎藤村

▲家庭の新趣味齋藤品花▲望診市川鹽泉

るか……新歸朝  
女子高等師範教授 宮川壽美子

▲無作法の女に……………日本正風會員 中島義三

▲室内の遊び…東京遊戯法研究会講師 伴茂樹

▲**實業家の婦人** 原禮子・中山幸子……記者

家庭雜誌

大家庭

十一月三日	天長節	發行	第二卷	第一號發行
每月一	回三日	發行		
定價金七錢	郵稅金五厘	六冊	十二冊	前金八拾錢
		前金四拾錢		

▲断乳は如何にすべきか 東京女醫学校長 鷺山彌生子  
▲女子活動の方面は何處にあるか 記者 見

記者 東京の婦人界……………

◎處女の危険◎  
東京府立第一高等女學校校長 伊藤貞睦

其係其果其面其白其なる其内其代

新刊 三才圖會

本誌は新歸朝者宮川壽美子女史を始め活動的新婦人の光彩ある文稿及び教育諸大家並文士實業家金王の文種に談話を掲載

研究顧問(衛生及育児) 東京女子醫科大學長 野山彌生子  
外名監 齋名 女子新職業婦女通信社長 松本順造

**發行所** 東京東區小石川  
本館 日本橋區本町二丁目  
**大日本高等女學校會**  
振替 壹圓 貯金 壹圓 口金 壹圓 座番 壹圓  
神田東區京堂 東京東區海堂 本日橋北區隆館 京橋良明堂 賣 捌 全書店

● 大好评初版切賣再版發賣 ●

▲杉浦重剛先生題字●豬狩又藏先生序文●菊版洋裝頗美本●定價金六拾錢郵税金八錢▼

東坡有法百韻

內  
比  
喻  
談  
三六題

昔々譚二八題

容  
歷史談  
三六題

御進物てとし殊

高尙にして有益であります

夜長の時節に坊ちゃんやお嬢さんからお母さん面白くなりまして

お話をし下さいと要求されるをは殆ど本書

は此の如趣味と教訓とを兼話の種を供給せん

き場合に主たる子を持つて親或は幼児教育の任に當

れ出したのである世に子を持つて親或は幼児教育の任に當

る人々には是非其本書を一部机上に備へられたき者で有ます

發行所

東京市本郷區元町  
二丁目三十三番地

靈文館

東京市京橋區南  
紺屋町七番地

神戸書院

# 神戸頌榮保母傳習所

## 生徒募集

○今や經驗ある保母の招聘切りに來る依て

○當所保母志望者を募集す

○普通保母たらん者は二ヶ年修業

○主任保母たらん者は三ヶ年修業

○自費貸費生二途あり委細は郵便

にて聞合ありたし

神戸市中山手通五丁目頌榮保母傳習所

エ、エル ハウ

十大入	罐七	大袋十	全五	入貳	定
五罐	人錢	錢人	錢人	錢	價
錢	錢	錢	錢	錢	

尚川玉本山 込牛京東 元賣護手一本回 賣專國米



# 婦人と子ども

## 第六卷第十壹號

### 幼児教育と自然主義

亞米利加には時々突飛な事を造るものが出るので頗る評判であるが、是も其一つて近頃ゲー、エフ、シャープと云ふ人は頗りに裸体主義とか云ふことを主張して居るをなだ、そして、其云ひ草は斯うである。一人人間が衣服を着るのは天賦の性質を損ふもので虎列剌、質扶斯、肺結核等一切の病氣は此天賦の性に悖る爲めに起る所の天罰であるとそこで、自らは裸体の儘で信徒を募つて居ると云ふことだ。ものも斯ふ烈しくなると馬鹿けた所は誰にも直に氣が着くけれど尤もらしい事だと中々人の氣の着かぬ中に其限度を通り過して極端になるものだ。婦人の裝飾や、子どもの教育などには此類の事が頗る多い。「婦人のたしなみ」が通り過して「おしやれ」になつたり、子供を彌が上にも能くしやうとてあれもいけぬ、是も面白くないといろく々な制限を置いたり、或は之を教へるあれも習はして置けて詰め込んで見たりするのは此例であらう。

昨日も電車で遇つた八つ許りの女の子は如何にも上品な美しい顔立で其上に衣服なども立派で見るからに人形の様であつたので同車の人の目を牽いて居つたが其活動は亦意外に少くて本郷から日比谷迄の間母親の膝に腰掛けたまゝ一寸の自動もしないし目も録に働かないので僕は非常に残念に思つた。そして然も得意らしくいやに囁いて居た母親の面が憎くなつて來た。折があつたらあゝ云ふ奴に我自然主義の幼児教育學を講義して遣りたいと思つた。誠に幼児の活動が愛す可きもの美なるものであることを知つて之をして益發展せしめ様などい考へ居る人は未だ少いと見える。(湖南)



## 日本家庭と英國家庭

女高師教授 宮川 壽美子

私は家政學研究の爲に凡三年六ヶ月間英國に留學致しました。時恰も日露戰爭の最中で空前絶後の我が大戦捷が英國民に深き感動を與へますと同時に在英中なる日本人は非常なる款待を受け私の如き一書生迄が方々から招待をうけ金曜日から日曜にかけては殆んど在宅の暇がなかつた程で御座いました。それで随分多くの英國家庭を見聞することが出来ましたが國異れば家庭の様子も從つて變つて居るは當然の事で我國家家庭とは餘ほど趣が違つて居りますから聊か兩國家庭の得失を御話しいたします。

### 英國家庭の長所

日本人が英國の家庭に參り先づ第一に感ずることには家内の極めて氣樂なこと、御座います。是は其の家族が夫婦を中心として成立つて居りまして舅姑とか祖父母とか叔父とか姪とかいふ異分子を交へて居らぬため夫婦の意見は憚るところなく實行す

二

ることが出来ますので家族中に氣がねをする人の居らぬに依るので御座います。第二には社會が個人を基礎として成立つて居りますのでこゝに新たに若夫婦が出来ますと其人達は老夫婦とは全々別居することになつて居りますから其間の經濟上の關係も我國と異り老夫婦は老夫婦で自ら養老金の貯蓄を企て若夫婦はまた例令自分等の生産力が乏ぼしくても決して老夫婦の補助を煩さぬ様に心掛け若し本國にて思ふ様に暮せなければ妻子携帶で世界中の何處へでも移住して氣樂な生活を求めます事では英國殖民事業の發達有力なる一大原因をなして居るので御座います。第三には第二の社會風習により個人々々の獨立心が極めて確固になつて居りますので人に厄介にならむよりは自ら働いてとの覺悟より勤勉家貯蓄家が多くなり全國一般富者の多くなることで御座います。

### 全國家庭の短所

右に申しましたやうに英國家庭には我國のみに見られざる長所をもつて居りますと同時に之に伴ふ缺點も少くはありません。先づ第一の欠點といふのは

婦人の我儘で克己心に乏しいとで御座いますか  
 之は畢竟嫁して後舅姑に従ふの風習がありません  
 ため、女兒もなほ男子の如く幼きより人としての  
 權利、自由等を認めて育てられますので例令自分  
 より目うへの人がたに對しても善と信ずる所は遠  
 慮せずになん／＼申述べるが常でありますから動  
 ともしれば我儘に陷るのでしとやかなる我國の嫁  
 君が苦痛を忍んで舅姑の命に従ふなどの強き克己  
 心はとても彼邦人には見られぬことで御座います  
 第二の短所と申すのは親子間、親戚間の水くささ  
 事でははつまり各人獨立心が強いのと親子親戚の  
 間と雖經濟上の關係極めて嚴格で親は下宿料をと  
 りて其子同居させ子は父親に對して少しばかり  
 の賃金をも催促するが普通で御座いますから我國  
 家庭の如く父子兄弟一致共力して一家を営み親戚  
 中の不幸者は食客として養育してやるなどの事な  
 く其間殆んど他人同様、極めて冷淡なもので御座  
 います斯る風習で御座いますから中等以上の人々  
 はいざ知らず下等社會の老人、即ち毎日の生活に  
 おはれて養老金を貯ふる事の出来なかつた老翁老

嫗はたよる人なく寒暑に耐へかね饑渴に苦んで行  
 き倒れ等の哀むべき状態に陷るもの甚だ多いので  
 六十歳以上の斯る困窮者を救はんがために區税の  
 一課として貧民税をとり立て養老院といふものが  
 倫敦市中に幾つとなく建て、あります該院建築の  
 壯大美麗なるとは一見貧民の收容所とは思はれぬ  
 程で其大さは三四千人を入るゝに足り立派な食堂  
 完備した寢室等一通り觀るにさへ三四時間を費す  
 程で御座いますから一寸聞きますと此等貧民のい  
 かにも幸福なること英國の慈善事業の發達して居  
 ることなどに驚かるゝやうで御座いますか纏つて  
 此の大建物の中に收容された老人達の心情を察し  
 て御覽なさい、身は老ひ果てゝなす事もなきに頼  
 むべき子なく愛すべき孫なく語ふべき親戚なく晝  
 をまつ間の朝顔の露ほどなりとも精神的慰藉を  
 受くるとが出来ません青ざめた顔色にいふべから  
 ざる憂を見せて一日と死に行く道に近くを思へ  
 ば孫の子傳りに餘命を送る我國老人の如何に幸福  
 なるかを喜ばずには居られませんか。  
 日本家庭の短所

斯う申しますと我國の家庭は如何にも幸多きもの  
 如く見えますすけれども是にもななく缺點が少  
 くはありませぬ即ち第一には老夫婦若夫婦の同居  
 により新舊思想の衝突は免れ難い所で家族間の感  
 情を損はず和氣霽々たる家庭をつくらむとする嫁  
 君の苦心は實に外國婦人の想像も及ばぬ事で若夫  
 婦が斷然自分等の意志を執行するなどいふことは  
 中々六ヶ敷從つて海外移住の如きは我國民の極め  
 て不得意な所なので御座います、第二の短所は子  
 は親を養ふ責任を負つて居り長男は次男以下を育  
 てねばならぬ場合が多くありますので漸く獨立が  
 出来る程に成長すれば是等の義務を果すために活  
 かなければなりませんので長く修學に身を委ねる  
 ことが出来ずあたら天才も日々の生活に齟齬して  
 十分の進歩發達を見かねる事が少くない事で御座  
 います。  
 吾邦家庭の長所  
 以上申上げた事により日本家庭の長所とすべき點  
 は大抵御推察が出来ると思ひますが中々西洋家庭  
 に劣らぬ長所がありますのでまづ第一には嫁して

四  
 後舅姑に事ふるといふ風習のある爲女子が一般に  
 克己心に富んで居ること第二には親戚中水くさ  
 事なく貝津養老院の如き哀むべき物の必要を生ぜ  
 ざること第三には家庭教育の行き届く事で御座い  
 ます、第三の長所に對しては特に申上ぐる必要が  
 あります、第三の長所では主婦も主人と同様に交際場裡  
 に出ますので幼兒は暖か母の手に育てらるゝ事が  
 出来ずそれに舅姑とか祖父母とかいふ閑人も居り  
 ませぬので中流以上の家庭では大抵ナースレーと  
 申して養育所とか子供室とか申す様な別室でナ  
 ス即ち傳やくの手に大事な大事な家庭教育を一任  
 するので御座います夫れで親子親密に一室の中に  
 起居する事がありませんから親子の愛情が十分に  
 行かぬ許りでなく家庭教育上遺憾と思はる點が多  
 くあります、吾國では例令主婦が家事に齟齬して  
 居りまして子供に脆い祖父母が同居致して居る  
 ので幼兒等は注意細かさ老人の膝下に行届きたる  
 教育を受けることが出来忠君愛國の情、祖先を崇  
 ふの念等は三つ子のうちよりふき込まれるので外  
 國人には不思議と思はるゝ程の大和魂を鍛へ上げ

ることになるので七才にして君の爲に忠死したといふ千松の逸話なども聞かるゝ様になつて居るの御座います。

斯の如く日本家庭は外國のそれに比べて優れたる點もあれば劣つて居る點も少からぬ次第で御座います。が、一身上の幸福と云ふ點から申しますと我國婦人の方は遙に仕合と申すべきで御座います。夫れは日本婦人は妻として母として主婦として又嫁としてあらゆる苦心を一身に脊負ふて立たなければならぬ事は外國婦人に比して甚だ苦勞の多い譯で御座います。が結婚と云ふ事が一家の經濟上外國の如く大なる變動を來しませんから大抵の婦人は相當の配偶を得て結婚するので年老ふる迄獨身の不幸を見る人は誠に少ないので御座います。外國婦人になりますと結婚すれば必ず新しく家を構へなければなりません。裁縫料理等家政向きの事が甚だ不心得なため家内中の衣服は洋服屋へ料理はコックに頼むといふ事になります。交際社會には夫人も出なければなりません。交際費も二倍になるといふ譯で獨身時代と結婚後とは經濟上

に大した影響がありますから之に堪ふる生産力の無いうちには輕々敷結婚が出来ませんので自然獨身者が非常に多くなります。是等の獨身婦人は自活の道をつけねばなりません。其の苦心は又我國婦人の想像の及ばない程で四十歳前後のミスの中には頭髮の半は白さを見る事は珍らしくないので御座います。以上日本婦人は結婚上から見て幸福であり且つ種々の長所を以て居ります。十分自重して猥りに外國婦人の位置境遇を羨む必要はありません。然らばといふて現在發達の程度で満足すべきではありませんが十分我が長所を維持し發達せしむると同時に外國婦人の長所例へば智識の豊富なること頭腦の明晰なること活氣の有ること等はとつて以て我が缺典を補ひ自己の進歩を計ると共に家庭の改善に務めなければなりません。中に幼児教育ことに男兒の躉方の如きは彼に學ぶべき點少からず英國男子のセントルマンの手本として貴はるゝは一に彼國婦人の男兒教育法の如何に原因するもので御座います。かち保育の任に當らる方々は此邊も御考へになりまして大和心を養ふ



と共に外國人の美風をも加味せるうるはしき我國の御養成につとめられんことを希望いたします

英國の家庭では客などの前で男の子を扱ふに何時もセントルマンの語を用ゐて居るそなだ。一寸窓など開めたい時は「あの窓をセントルマンに閉めて貰ひませうかね」とか「角砂のお皿はセントルマンが持つて回はるのだから」などいふので水兵服の小さき紳士は意氣揚々と給事して喜んで居るそなだ。會に喧嘩などするものがあると「セントルマンが何だね女の子などいぢめて」といふので直に止めてしまふ、  
萬事小さい時から斯う云ふ風なので三つ四つの頃に其始めて水兵服を着せられた時などには非常に悦んでセントルマン／＼と叫んで歩くそなだ。

## 音樂管見

女子音樂學校長 山田源一郎

### 幼稚園の音樂

元來幼稚園は音樂を以てその大半を占むるものなり、音樂を離れては幼稚園なるものは殆んど無意味となるべし、音樂は何人も好むものなれど、わけて兒童の最も好む所にして、幼稚園には甚だ必要あるものならん。されど、幼稚園は文字の示す如く最も幼稚なる兒童のみを收容する所にしてその目的たる相手方已に幼童なれば、これに課する音樂も又從つてやさしきものたらざる可らず。但し、そのやさしきものたるや、唯歌曲の容易なりと云へる意味のみに限らず。卑近にして興味あるもの、而も野卑に流れざるものたらざる可らず然れども、現今の幼稚園又は小學校に用ゆる音樂を見るに、必ずしも斯の如きものみにわらず、中には高尚に失し興味少なきもの多きを見る。これ等は畢竟幼稚者に教ゆる音樂の研究足らざるが故なり。我國現今の音樂は多く西洋の粹を探らん

とせる時期にして、卑近なる音楽は殆んど顧みざるの時なり。故に高尚なる音楽は時々輸入せらるれど、兒童に適する簡易なる音楽は缺乏せり。これ甚だ嘆すべき現象にして兒童に不幸なるのみならず、又音楽普及の點に於ても遺憾に堪へざる所なり。音楽は俄に普及せんとするも效少なく、必ずや幼稚なる時より徐々に思想を養はざる可らずその普及を斗ふは幼稚園小學校の時代より音楽を課するに如かず。この時に於て幼童に授くる適當なる音楽なきは、豈憂ふべきことならずや。世の音楽家たるもの宜しくこれが發展を講すべし。これと同時に望むべきは、保姆の音楽思想を進めたることなり。保姆の待遇卑きがため、現今保姆に充分なる素養を有するもの甚だ稀なるはいと悲しむべきことなり。苟も音楽に興味を持たせ愉快に教授せんと欲せば、教授者自身に於て音楽の興味を有せざるべからず、音楽の思想乏しくして他人に思想を與へんなどとは、木によつて魚を求むるの類、到底得て望むべきにあらず、前にも述べし如く、已に適當なる歌曲なき今日に於て良

教授者を缺くとせば、完全なる教育を施すこと能はざるや明なり。吾人は初等なる音楽の研究を必要とすると共に、又これを授くる者に於て相當なる修養を爲さんことを希望して止まざるなり。

### 國民的音楽

風俗習慣は言ふを待たず、文學音楽の如きに於ても國相應のものありて存す。殊に音楽の如きは國民性の表れしものと見るも差支なければ、その國によりて異なるは敢て不思議にあらず、否その異なる所に特長ありて妙味は存するなり。然るに今の音楽家稍もすれば一も西洋二も西洋、西洋の音楽にあらざれば音楽にあらざるが如く、日本固有の音楽を排斥して、西洋樂のみを採らんとするは、慎重の態度を守れる者と云ふを得ず、如何にも西洋は日本より進歩發達せるを以て、研究上これを學修するは正當の事なるも、それが爲め西洋のみに偏重して、在來の日本音楽を放任するはよからず、彼れの長を採ると共に必ず我れの短を補ふてふ心掛なかる可らず。

音楽を國民に普及するにはよろしく音樂堂の如

きものを設けて時々演奏すべし。東京市の日比谷公園に音楽堂設置されしも、未だ市民の數に比すれば不足なりと云ふべし。東京市の如き所に於ては、少なくとも三ヶ所位は設くるの必要あり。音楽堂演奏の音楽を充分解する人は稀なるに相異なけれど、音楽を耳にして何等かの感情を起すは事實にして、如何なる人にも、これを聞ける間は他事を忘れて無念の境に入るならん、斯の如きと屢々度數を重ねれば、知らず識らずの間に音楽思想は注入せらるゝに至るべし。而して茲にこの音楽會に希望するは、歌曲の大意、作歌者の人物及びその當時の時勢等を、一般の人に知らしむる方法を採り度きものなり。演奏の如何なるものなるやをも知らずして聞くは無意味に終りて效少ないも、大意を解せば門外漢にても幾分の興を増すに至らん、幾分にも興味を覺ゆるに至れば、それだけ音楽思想は普及されし譯なり。故に東京のみに限らず、京都、大阪、長崎、函館等至る所に時々この會を設け、以て國民に聞かす様爲したきものなり。それにしても、音楽家を多く養成せざ

ればこれを充たすこと能はざるを以て、音楽家を養成する工夫をも爲すべし。日比谷音楽會が、陸海軍の音楽隊のみに限らるゝが如き有様にては駄目なり、宜しく市中の各音楽隊を充分完全に進めるの如き晴の會堂に出さる可らず。今の廣告屋の音楽隊は、唯音をさすのみにて、樂理に合はざる故人中に出すこと能はざるなり。當今音樂は大に盛況を呈し來れるを以て、追々進歩發展を見るに至るべし。喜ぶべき現象と云ふべし。(龍東記す)

八

●靴の耗方と人の性質 瑞西の一下クトルは多年研究の結果靴の損じ方にて人の性質を判斷する方法を發明せる由なるが其説に依れば靴の爪先と踵の部分が規則正しく又た等分に耗るものは其男子たる場合に於ては極めて善良なる事務家にして正直の人なるべく其婦人たる場合に於ては良妻賢母の人なるべく靴の外側を穿き耗らす人は頗る冒險進取の象氣に富み執拗の性を帯び又内側を穿き耗らす人は男子の場合に於ては優柔不斷の人なるべく婦人の場合に於ては内氣の性質と判するを得べしといふ

## 下婢と兒童

女 高 師 東 基 吉

▲我國の家庭に於て教育上迷惑を感ずるものは實に下婢である。元來教育もなく躰もないものであるから不足は云へない道理であるが然りとて之を捨て、置けば随分色々な都合を生ずる。子どもが思ひもつかぬ中に種々な悪習慣を養生せらるゝのは多くは此下婢の模範により得たのである。

▲一体我國に於ける下婢と兒童との關係は何處の家でも主従關係で從つて子どもも下婢に向つて或種の權威を以て居るので茲に種々な弊害を生ずるの源因が伏在して居るのである。是は我國の家庭教育を改善するには根本問題であらうと思ふ

▲外國では下婢は如何なる家庭でも主人の小供を呼び捨てにするのである。何か行爲上の事を云ふにしても「メリーお前斯ふするんだよ」など云ふ様であるし、小供も「お前は松じやないか奉公人の癖に何を云ふのだへ」など、小さな主人風を吹かすものは藥にしたくもないのである。是は召

使は小供の召使ではなくて主人の召使であること又召使とても小供に對しては大人である。小供は大人に對しては相當の敬意を拂はなければならぬといふ考へから來たのである。勿論外國では下婢と雖ども相當の教育あるが故に斯かる風に行ふ譯には行かないが、あまりに坊様ごかしにする家庭へは少し此主義を加味したいものである。

▲又下女とても置く位ならあまり無教育のものは止めたらよいと思ふ勿論下女奉公する位なものに満足な教育を受けたものはないにしても其人物次第で可なりに使へるのがあるから大に選擇しなければならぬ。

▲又下女に因ると主人が如何に云ひ付けて置いて陰に廻はつて子供に虚榮心を増長させ御機嫌を取つて甘へさせるものがある。そして私に自己の地位の安固を計るものがある。會々多くの下女の中に篤實なものがあつて陰日向なく子供を待遇すると却つて子供のお覺え目出度からず遂にはお奥の信任も害して放逐の難に遇ふことなどがある

ので矢張怪しからぬ不心得の下女が末永く跋扈するのである。

▲僕の知人に頗る家庭教育に意を用ゐて居る人があつて決して子供に間食をさせぬ事にするのだと云つて本年の春生れた赤子に對して食事の時間と分量とを嚴重に極めて居る人がある。所が其子守が少し宜しからぬものなので負ふつて出ては外で牛乳の代りに水などを瓶に入れて飲ませたり、焼芋を買つて食べさせたりしたので折角の苦心を水の泡にして居つた事がある。

▲又ある處の下女は主婦の留守をしながら子どもを椽端で遊ばして居た時誤らて其子を椽から落したのを其儘拾ひ上げて兩親に語らず誰にも見せず置いた。數日の後小供があまり痛がつて泣き止まないからとて兩親は何うかじたのかしらん位で醫師に見せた處が、是はしたり、一方の足の骨が挫折して居て而も手後れの爲めに療治困難で遂に今日では相當の年輩になつて尙全くの畸形になつてしまつたと云ふことである。

▲是は或る幼稚園での話であるが下女は家に居て

働くよりは子供に付添ふて幼稚園に来て居る方が樂なので子供に對して態と子供の離れない様に仕向けて殊更に幼稚園に附添ひ来るものがあるをだ。斯る子供は何時迄も附添人を傍に置たがつて仕方がないと云ふことである。誠に兩親の氣の付かぬ所で、下女や何かい教育の妨害をするのは残念な事である。下女下男を多く雇ひ置かるゝ中では兒童教育上十分此邊の指揮監督を嚴重にしなればならぬ。

齒の保護

齒を養ふには石灰鹽を多量に含む食物を取るにあり、石灰鹽を含有する食物は

甜帶菜	あらめ	昆布	蝦佃煮
青海苔	芋莖	海鼠腸	味噌
名古屋味噌	蕨	黑胡麻	シヨ目刺
遠草海苔	秋刀魚(鹽藏)	鰯鮓	大豆
胡瓜	菜豆	蠶豆	小豆
胡桃	無花果	大麥	豌豆
玉蜀黍	小麥	柿	蕎麥

(志村齒科醫院長食道樂)

# 實驗上の育兒

醫學博士 瀨川 昌 著

▲薄め方の心得 牛乳の薄め方に就ては是迄澤山御質問が有りますから、詳しく茲に説明致します。うが、先づ次の表に依つて御覽下されば、牛乳の薄め方から、薄めた牛乳一日の用量から、其薄めた牛乳中に要する純牛乳一日の分量から、一日授乳の回数から、一回の飲用分量迄、生兒成長の月日に従ひ、夫々薄め方や飲ませる分量が一目してお解りになることゝ信じます。

生後一週	牛乳薄め方	薄めたる牛	純牛乳一	一日一回の授
二週より	牛乳水	乳一日用量	日の量	乳回数飲用量
三週より	一合 三合	四合	一合	八回 五勺
四週より	一合 二合	六合	二合	八回 七勺餘
五週より	一合 一合五	七合五勺	三合	七回 一合
六週より	一合 一合	八合	四合	六回 一合三勺
七週より	一合 五勺	七合五勺	五合	六回 一合二勺
八週より	一合 五勺	七合五勺	五合	六回 一合二勺

うに願ひたいのです、先づ初生兒が生れて一週間から三週間頃迄牛乳で養育するには、牛乳を何の位の割合に薄めて與へたら可からうかと云ふに、牛乳一合へ水三合の割合にして薄めれば丁度可い加減で御座います、ソコで晝夜一日分の用量は今か話した割合で薄めた牛乳四合あれば凡を差し支へないのです、其の四合の薄めた牛乳の中には純牛乳一合を要するので、表にも純牛乳一日の量一合と記してあるを見ても良くお解りになりましたらう、薄めた四合の牛乳は一日何回に分つて飲ませるか云へば夫れ晝夜八回に授乳するので一回の飲用分量は即ち五勺に當ります、其の次きは四週より二ヶ月迄、三ヶ月より四ヶ月迄、五ヶ月より六ヶ月迄、七ヶ月より八ヶ月迄、今説明した通りに表へ照して見たら生後の月日によつて、薄め方も、薄めた牛乳一日の用量も、純牛乳一日の分量も、一日授乳の回数も、一回の飲用分量も、皆夫々に違ひのある事を知り得るでありませう、去れど此表に據つて斯ういふ御不審が起らうかと思ひます、五ヶ月より六ヶ月迄は薄めた牛乳を一日

入合宛要するのに、七ヶ月より八ヶ月迄は却つて  
用量を減じ一日七合五勺の割合になつて見ると、  
小兒に成長するのに用量の減する筈はあるまいと  
斯う云ふかも知れないが敢えて分量を減らしたの  
ではない。其證據には純牛乳一日の量を見れば直  
にわかるでせう然らばなぜ減らしたかと云ふに其  
は唯薄め方を減らした丈です。即ち此頃になると  
子供の消化力が漸く増して來て居ますから然のみ  
薄くしない方がよいのです。  
▲杓子定規の親 凡て牛乳の薄め方でも、薄めた  
牛乳一日分の用量でも表に示した通り、何でも彼  
でも表の規則にのみ拘泥するのは却つて杓子定規  
になつて、保育上の障害となるのです例へば今月  
の末日と來月の初日とは月こそ異なるも、日取り  
に左して違ひのなきものを、表に示す如くに生後  
の月に計り據つて、今日迄は何ヶ月の部だから何  
の位に薄めなければならぬ、明日からは何ヶ月の  
部になるから薄め方を換へなければならぬと云ふ  
様に際立たせるのは、之れは杓子定規と申すので  
却つて小兒の身体の爲めに宜しくないのでありま

十二  
す、其處は程と加減の見計ひを付けて、表に示し  
た規則をば臨機應變の處置を取るのが肝要であり  
ます

▲授乳と其間の時間 夫れから未だ一ツ表に依つ  
て御不審が起らうかと思ひます、夫れは外でもあ  
りませんが前に授乳から授乳迄の時間を生れた當  
座は大略二時間位とお話し致して置いたことが御  
座います最も二時間経つたからとて、快よく眠つ  
て居る小兒を無理に起して授乳するには及ばぬと  
云ふ、御注意は申して置いたが、扱て表に據つて  
一日授乳の回数八回としてある處から調べて見る  
と、授乳から授乳迄の時間は三時間となるが、牛  
乳斗りで養育するのは人乳で養育すると違つて、  
授乳時間の隔てを永く置かなければならぬかとの  
お疑念があるかも知れないが、之れは決して爾う  
いふ譯では無い、薄めた牛乳一日分の用量さへ極  
つて居れば、夫れを十二回に分けて即ち二時間目  
位に飲ませても一向差支へないのですが前々にも  
申した通り出來る事なら授乳と授乳の間を成るべ  
く永く隔て、つまり三時間以上とする習慣をつけ

たいのです、それゆゑ表に顯したのは普通一般に用ひ易きやうと思つて御參考に供したのでありますから、程よく其邊を斟酌するやうに致された

▲左程理詰のものではない 一人人間の身体は規則通り一分一厘も違つてはならぬと云ふ爾な究屈に出来て居るものではない、謂はゞ自然に調節の出来て行くもので多少の斟酌をしても夫れが決して健康を害するやうな事は無いものです、夫れよりは却つて規則にばかり心配仕過ぎて害になつたと云ふ事實の方が澤山見受るので之れは小兒でも大人でも同じ理屈で又實際の上にも其通りの反證があるのですから、規則に斗り縛られないで、表に示した様な規則は母親が活用して下さる事を望ましいのであります

▲砂糖を加へよ 薄めた牛乳が満足に出来たら、夫れを飲ませる時に、其中へ砂糖を加へる事を忘れてはなりません、夫れは乳糖でも、白砂糖でも可いが、薄めた一台の牛乳へ、小匙(珈琲など呑む時に用ゆる小匙)タツブリ一杯丈加へて能く攪

廻して砂糖が溶けた處で飲ませるやうになさい、牛乳養育に就て大切な注意は此外に未だあるので引續いて次に述べる事に致しませう

▲薄める水 牛乳養育に就て大切な事は前に述べた通り故夫れを能く御記憶あるやうに致したい、表に示した薄め方や、純牛乳一日の分量、其他必要の事は種々御座いましたらう、夫れを充分御諒解になつて暗誦して居る位に願ひたい、當つて直ぐ其理解が胸に浮ぶやうでないと思ふ勝ですから呉々も御注意申上げます、切牛乳を薄める水は生の水で宜いか、何うかと御質問が来りますが是れは一端沸騰したものを冷して置いて、夫れで薄めるやうに仕たい、尤も湯で薄めても差支へないが、配達になつた牛乳を直ぐ薄めて飲ませられぬのですから、水で薄めて宜い事は牛乳消毒のお咄しする中に詳しく申上る事にいたしませう

▲當にならぬ肥り方 生後七ヶ月より八ヶ月迄は純牛乳一日の量五合と表に示して置いた事は御記憶でありませう、牛乳ばかりで養育する一年前後



の小兒であれば一日純牛乳の分量は五合で止めて  
 差支へない、詰り五合與へれば小兒發育上充分の  
 營養があるので、之れ以上飲ませる必要を認めな  
 い併し飲ませさへすれば、此時代の小兒は際限な  
 く飲んで一日に七合も八合も飲む兒が世間には澤  
 山あるのみならず親達も牛乳を澤山飲む事を誇つ  
 て「此の兒はズン／＼牛乳を飲んで一日には七合  
 でも八合でも飲みます、爾うして此通り肥満して  
 居ります」と申す方もありますが是は却つて心得  
 違ひの事であります、何故なれば小兒は生後七八  
 ケ月の頃からには前にも述べたる如くシロ／＼他の  
 食物を取る時代になつて、乳の外に何か食物を欲  
 しがるものです、處が一ヶ年近くになつて七八合  
 も飲む小兒は、親が外に食物を與へぬ爲でありま  
 す外の食物を與へぬよりは、牛乳を飲ませて置く  
 方が滋養になるだらう、杯と多くは素人考へをする  
 からであります、牛乳を澤山飲んで肥満して居る  
 からと云て、此の肥り方は餘り感心致しませんで  
 す、成程一寸見れば丈夫そうだが皮膚の色は全然  
 蒼白で貧血して居るから却つて體質は悪い證據で

あります、ソコへ心付かずに唯肥満すれば夫れで  
 宜いと思ふのは、飛んだ誤解でありませんか、小  
 兒には色々な質があるので肥らないからとて決し  
 て心配になるものでなく、肥つたとて體質が悪け  
 れば其の方が遙に心配になる事であります、故に  
 生後七八ケ月の頃に至り他の食物を欲する時は返  
 つて與へる方が可いのです、食物の中にはいろい  
 ろの良い成分があつて營養も可くなる、體質も可  
 くなると云ふ譯になるから、牛乳は一日量五合止  
 めにして七合も八合もと澤山に與へず其の間には  
 食物を取らせ、身体の故障を來さぬやう俗に云ふ  
 だまし／＼食物を見計つて與へるやうになさい、  
 尚序にお咄し致して置くのは生後九ヶ月目からは  
 牛乳を薄めずに純牛乳の儘與へて少しも差支へな  
 いのです、其分量も今申した通り一日五合止めと  
 云ふ事を心に留めて頂きたい

方　　ち　　裁

堅	衿 <small>小</small>	前身	後身頃
衿			
	衿 <small>小</small>	頃	

用布 五尺二寸  
 (一尺幅)  
 後身丈 一尺五寸七分  
 前身丈 一尺六寸四分  
 衿肩 一寸一分  
 (内二分廻ス)  
 小衿丈 六寸五分  
 堅衿丈 一尺三寸四分

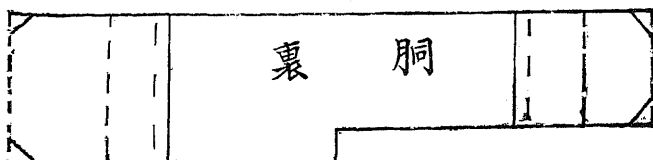
一つ身袖無被布

衿	堅	前身	後身頃
衿 <small>小</small>	衿	ハギ	頃
マ	衿 <small>小</small>	リ	コノ

用布 七尺  
 (一尺幅)  
 堅衿丈 一尺四寸  
 堅衿幅 六寸五分  
 小衿丈 六寸五分  
 後身丈 二尺  
 前身丈 二尺二寸  
 衿肩 一寸一分  
 (内二分廻ス)

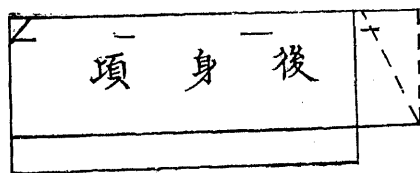
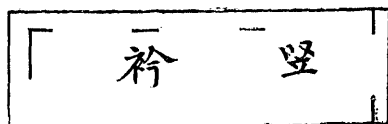
岡本ちか

普通仕立上寸法  
 身丈 一尺五寸  
 身幅 一ツばい  
 脇明 六寸  
 前下り 三分  
 襷幅 上二寸四五分  
 堅衿下 三寸  
 堅衿幅 上二三寸  
 下三寸  
 上三分ツメル  
 小衿 丈幅共一ツばい



縫標附け方

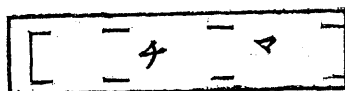
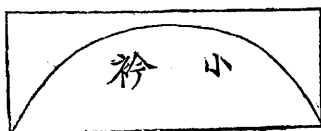
表裏とも  
表を中に  
して二つ  
に折り、  
表身頃の  
上に裏身  
頃を載せ  
て、圖の  
如く胴は  
ぎの標を  
なす。



若し裏の附く時ならば  
裏を縫ひつけ置き、幅  
を二つに折り折目を手  
前にして、丈、幅など  
の標をなす。

肩衿

後身頃を前身頃の上に  
山より二つに折り、圖  
の如く脇明、前下り幅  
などの標をなす。



丈を二つに折り幅丈及  
び丸みなどの標をなす

表裏の襷をはぎ合せ、  
表を中に二つに折り、  
丈及び上下の幅標をな  
す

縫ひ方

第一、身頃の胴はぎして、折は裏の方に返し縫

第二、前下りを表は標の處、裏は標より一分五厘縫込みて、折は裏に返し隠

第三、前後の襷をつけ、折は身頃に返します。

第四、堅衿の表のみを表身頃につけ、折は堅衿の方に返し、上下を縫ひて裏の方に返し、縫

第五、協明の山の處を、表は標より一分外、裏は標より一分内に折をつけ、表裏を合せて縫

第六、綿入

第七、裾假綴、協明綴（針目一寸三分）

第八、前襷、堅衿綴

第九、堅衿と、小衿との間を紵け、次に堅衿紵。

第十、小衿縫（縫標を表は其所、裏は標より一分内を縫ひ、丸みに綾を取り、心を其形に合

せて切り綴ち附けます）

第十一、小衿附、裏身頃に小衿の表を稍弛めに針を指し、一針抜につけ、折は衿の方に返し裏を表より真中の處にて二三分幅をつめて、小さく紵けます

第十二、飾紐（通常八尺位にて結びます）

●佛國の結婚法改良意見

佛國にては結婚及び離婚の便を謀らん爲めヘンリー、クワロン氏會頭となりモリス、マールリング氏等委員となり結婚改良の意見を汎く世に徴し改良の實を擧ぐる事に決したるが委員等の主なる意見は結婚せんとする者は最も容易に結婚し離婚せんとする者も亦容易に離婚し得る事とし且つ結婚したる爲め婦人が若干の權を失ふ事なく全然同權者たらしめ姦通を罰せざる方針なりとぞ是れ姦通を罰するは實に一種の復讐に外ならずと云ふにありとか進歩か退歩か一寸判じかねる次第なり。

短篇小説

小春日

堀内新泉

一、  
たしか、僕が、十歳の年で、時候は、何んでも家の庭に、藤や、躑躅の咲いて居た時分だと、おぼろげながら覚えて居る。

一日、學校から歸つて、平生のように、復習をした後に、その日も亦、僕はすぐに、正木の家に飛んで行つて、

『叔母さん！』  
と元氣よく呼ぶと、『オ、川田の坊ちゃん入らつしやい！』と云ふように、お馴染のボチ（犬の名）が、大きな尾を振り／＼出て來て、僕の顔を仰いで立つた。

この老犬を相手にして、僕は、お玄關の前で遊んで居ると、奥から、此方へ聲音がして、  
『今、孝ちゃんの聲がしたようだ、それとも、

私の氣の所爲だつたか知ら』  
と云ふ聲諸共お障子が開いた。

二、

僕は、ボチの頭を、おさへた儘振向ひて、  
『叔母さん！』

『オ、やつぱし、孝ちゃんでしたのね！』  
と云ひ／＼叔母さんは、笑顔をなすつて、式臺に一足、お下り成すつた。

僕は、すぐ叔母の傍に行かうとすると、『坊ちゃん、最少し遊びませう』と云ふように、ボチは、僕の背中に飛びついた。

『コレ、ボチや！』  
と叔母さんは、お叱り成すつて、

『さあ、孝ちゃんや、お上りなさい！ あなたの好きなお菓子があつてよ。昨日は、何うして、入らつしやいませんでした？ 叔母さんは、待ち焦れて居ましたのに』

僕は、編上げの靴を脱ぎながら、  
『昨日はね、多美と、祖母さんのお墓に参つたから來なかつたの』

『オヤ、まあ、左様でしたか。さ、そのお靴を、此方へ納つて置きましようね、また、ボチが持つて行くといけないから』

ボチは、お宮の前に在る、唐獅子のような鹽梅式に、御影の敷石の上に座つて、尾に石を掃きながら、『私も坊ちゃんとお揃いに行つて、お菓子頂きたいな!』と云ふように、じろくんと、僕の顔を視て居つた。

三、

幾間か、過ぎて、叔母さんのお部屋に行くと、大きな紫檀の茶棚から、割つたらトロリと牛乳の垂れさうな、綺麗な花の附いた、僕が、大好物のお菓子が出た。

『叔母さん、有りがたう!』

とも何んとも云はず、両手に抱へて食べ始めると叔母さんはニコくと、僕の顔を御覧なすつて、『孝ちゃんのお顔は、ほんとに、何時見ても可愛のね!』

とおつしやつた。

この叔母さんは、僕に取つては、まるで、眞實

のおつ母さん見たようだが、無論、眞實のおつ母さんでも無ければ、實は叔母さんでも無いのだ。それが、何うして、僕を、こんな、可愛がつて下さるのか、僕にも、解らないのであるが、僕が、この親切な叔母さんに就いて、知つて居る丈の事を云へば、先づ斯うである。

叔母さんの家と、僕の家とは、太く懸意な間柄、叔母さんの家も、立派な家、僕の家も、立派な家であるが、僕の家には、僕を長子にして、男の子が四人もあるのに、叔母の家には一人も無い。たい、これ丈か、叔母さんの家と、僕の家との異つた所で、叔母さんが、僕を、子のように可愛がつて下さるのも、また、その所爲であらう。

併し、それにしては、一ツ合點の行かぬことがある。たい、向ふに子のないために、此方を可愛がつて下さるのなら、僕達兄弟四人を、皆、おなじように可愛がつて下さりやうなものだ。

それぢや、叔母さんは、僕の弟達は、可愛がつて下さらぬかと云ふと、そんな分け隔てをするよきな叔母さんではないが、併し、何うやら弟達に

對しては、僕を可愛がつて下さる程ではないよう  
だ。

そののみならず、僕には、まだ、何うも、合點  
の行かぬことがある。

それは、僕のおツ母さんに就いての話だ。

僕のおツ母さんも、悪いおツ母さんではないが  
何うかすると、小供心にも『はア、可怪いな！』  
とおもふ、事がないでない。ぢやア、おツ母さん  
が、僕を憎みでもするかと云ふに、僕のおツ母さ  
んは、そんなおツ母さんではないが、でも、三人  
の弟達程には、僕を可愛がつて下さるようであ  
る。

#### 四、

それから、最一ツ、僕には、何うも、合點の行  
かぬことがある。

それは、今、二月ばかり前に亡くなつた、僕の  
祖母さんに就いての話だ。

元來、僕の、祖母さんと云ふ人は、勝れて、子  
供を可愛がる人であつたが、その中にも、これが  
又矢張、今おもふと、僕達を、いくらか區別して

居たようだった。

それかと云つて、無論、何れもかなしく可愛孫  
のこと、僕丈を可愛がつて、弟達三人を、憎むと  
云ふ譯ではなかつたが、でも、何うかすると全く  
そんな氣味がないでもなかつた。亡くなる少し前  
の夜に、此家の叔母さんと、多美（僕の家には、僕  
の生まれぬ前から居るといふ、年間な女中だ）と  
を招いて、僕の外には、誰も居ない所で、僕を指  
して、

『何分！』

と云つて、涙を流して拜んだのを、僕は、身に染  
みて覚えて居る。

これは、僕のひがみかも知れないが、多美に就  
いても、家で、肝心な、お父さまに就いても、不  
思議と云へば、いろ／＼不思議なことがあるが、  
不思議でないと思へば、また何んの不思議なこと  
もありはせぬ。おツ母さんが少し位、何うした所  
で、それは當然さ、僕が、一番大きい兄さんだも  
の！

#### 五、

僕は、今日、叔母さんの家に来る道でも、前々かなじような事を思つた。

けれども、一目、叔母さんのお顔を見ては、何んとなく、嬉しさが胸一杯になつて、そんな事は忘れて仕舞ひ、充分、好きなお菓子を食べ、最う、見るのもいやに成つたので、食べかけた一ツをもつて、これは僕と仲好しのボチに與らうと思ひ、叔母さんのお部屋を出ようとすると、ボチははや、お椀先に來て居つて、

『坊ちゃん、此です！』

と云ふように、ワンと吠えた。

『まあ、ボチの伶俐なことを御覽なさい！ 何時も、孝ちゃんに頂くものだから』

と云つて、叔母さんは、お笑ひなさる。僕も感心して、

『やア、最う來てるな！』

と云つて、少し割つて投げて與ると、ボチはペロリ、

『坊ちゃん、酷いね！ たつた、これッばかり』と云ふように、ゆらりと房なす尾を振り／＼、僕

の顔を、しげ／＼視て居る。

僕は、一番、からかつて遣らうと思ひ、お菓子の残りを兩手に持つて、跳りながら見せてやるとボチも、僕とおなじように頭を張つて、ワン／＼吠える。

『さあ、これ與るから、チン／＼しろ！』老犬は、僕の命令に従つて、ズツと立つて前脚を折つた。

『ボチ、何んです！ お前、最う、好いお老爺さんのくせに、チン／＼でもあるまいよ』

と云つて、叔母さんは、お笑ひなすつた。

すると、ボチは、極り惡さうに、チン／＼をよして。

『奥さま、御免なさい！』と云ふように、俯目になつた。

不憫さうだつたから、僕は、残らず投げてやつて、スグお庭に下りて、今日も亦、ボチを相手に追ひつ追はれつして、この上もなく、愉快に遊んで居つた。

その中に、叔母さんの姿は、何時の間にか見え



なく成つたが、すぐに又、僕は見知らぬ他所の小母さんと二人で、お座敷に見はれた。僕は、ボチと、藤の花の鮮かに映つた、池の周を飛びながら、他所の小母さんに、一寸お叩頭した。『まわ、少しの間に、大層、おみ大きくお成りですことねえ、彼れが彼のお兒さんですか』『左様ですよ』『まわ、ねえ!』その時、丁度、池の此方に廻つて來た。僕を見て、『坊ちゃん、まわ、一寸、此處に入らッしやいな! わなた、この小母さんを覺えて居らして? 母さんが御覽でしたら、嘿、まわ、お喜びでしやうね!』僕は、はッ! と思つて振り向く。同時に、叔母さんは、手を振つて、『何して、中々、耳が敏うございますからね!』と低聲で云つた。僕は、おもはず、立縮んで居ると、叔母さんは

其處から僕を逐うように、  
『まわ、孝ちゃん、最つと、ボチとお駈けなさい!』  
僕は、また、一散に駈出したが、心は、或る疑ひに満たされて居つた。(つゞく)

●裸體生活の主張者

人間の衣服を被るは天賦の性質を傷ふものにして虎列拉、肺結核、質扶斯等一切は此の天賦の性に悖る刑罰なりと主張し、自ら裸體の儘にて信徒を募りつくあるサー、エフ、シヤープはヤクラハマにて數回拘留せられたるに拘はらず五十餘名の信徒と共に決して衣服を着せず宜憲も之を如何ともする能はざりしが此程太平洋沿岸に新エデンの樂園を求め裸體村を組織せんとて出發したるを以て再び宜憲の爲に禁錮せられたり、去れど彼等は幾度拘禁せらるゝとも此主張を棄てずと宣言し居るとぞ北雷主義も物かは

りつとあさよ

朝 露 生

りつとあさよはアメリカの寺小屋のお友だちである。りつはカリホルニアの首府サクラメントに生れた子、あさよは四歳のとき渡米したさうで、りつよりは二つ年下で、ことしは八歳である。何れも黒い髪の毛、黄ばみし顔色、まがふべくもあらぬ大和撫子である。

あさよは日本語に英語をまじえ、りつは英語に日本語をまじえ、何れ劣らぬかしやべりである。

八月十二日、この二人をつれて桑港の金門公園にゆく約束をした。朝八時の瀛車にてゆく筈なのに、その十分前になつてもやつて来ぬ。どうしたのだらうとつぶやきて、とにかく近かきりつの家を訪れた。食事もすみ、衣裳も着更へて居るが、髪の毛が中々手間がかゝるとおつかさんは愚痴をこぼして居る。りつはこの國の少女だちのやうに髪の毛の捲き縮れたるを好むのださうで、日本風の硬き髪にてはどうも思ふやうにならず、リボン

にてところどころ捲きしめて居るところだつた。あさよはときくと、二十分前にはまだ眠つてあつたとのこと、うちつれてその家にゆくに、こゝはまだ着物も着かへず顔も洗はず、御機嫌甚だ斜めなりと云ふところだつた。

流石にわが前にてはだいつ子の幕も手短かにやつてのけ、漸くのこと、二人をつれたしたのは九時

を過ぎること、二十五分。加州大學生I君も同行することになつた。倫理と心理とを研究して居る人である。

二十分ならずして瀛車は波止場へついた。ゆるやかなる坂道のやうな階段を、人波と共にのぼりゆくうちにいつしか身は船の中に立つて居る。ゆるぎ出したる船の樓上に、誰憚らずかけ廻つて居るはりつとあさよである。海原の狭霧まだ晴れやらで、病める吾身には、うれしからぬ風、薄着せるあさよの身の上も氣遣ひて船室に呼び入れた。瀛鐘室を利用して暖爐やうのものをくりたりとてろがある。老ひたる人や幼き子だちなどそのほとりの椅子によりてたのしげにものたりして居る

その前にはガラスの窓ありて機械の動くさまなど  
手にとるやうに見ゆる。二つ三つ蒸氣の話など説  
き聞かせて居るうちに、船はついたとのこと、航  
海と云ふも可笑し十五分、吾等は電車のお客さ  
んととなり、焼野の原を走せゆくのである。ガフ街  
にて電車を下り、佛教會を訪れた。開教師など、  
ものがたりして居るとビヤノにも飽きはてたる二  
人はわがそばにやつてきた。

何か用があるの、アノキャンデーがほしいのです  
しかしと云ひかけたるはあさよである。ウエー

ウエツシユ トーウエセット アワーフレンド

シエースセック、ナヲ、と云ふたのはりつである。  
ア、さうですか、ぢやアチーと、見舞のものを調

へるやう指示してやつた。しばらくしてその友を  
つれてきた。けふはすこしよいので、かつかさ

にゆるされて久しぶりにて戸外にでたとのこと、  
シヨール重げに引き被せて、これも大和の撫子の

花、さみしき笑顔して吾に握手を求めた。日影う  
らゝかなる階段のもとにて、三人の少女だちは何

ものがたるであらう。笑ふ聲折々起りて、あとは

異國ぶりの唱歌の聲、洋々として起つた。

この幹事の君は、洞門の僧である。N君と云ふ  
のだ。I君と三人にてかのヤングレディーだちのお

伴することゝなつた。とにかく正午であるからと  
云ふので、かの三人を呼び入れた。病める子は家

にかへりたるよし、りつとあさはI君とならび  
吾とN君とは相對して箸をとつた。日本式のお料

理である。あさよいろいろの可笑しきことのみ云  
ふて一座を笑はせる。りつは極めて眞面目にて折

々々ベークアフルとかケーブステルとか注意を與へ  
る。姉さん顔する様子が可笑しいとて、吾等に冷

やかされる。  
彌々出かけやうと云ふので、N君は寫眞機を携へ

吾等もちつれて教會を出た。直ちに電車にのり  
て。金門公園についたのである。あさよ何を思ひ

出したか、公園ゆきはイヤ、クリフハウスにゆか  
ねばならぬと主張する。理由をきけば海水浴が出

来るからと云ふ。アイスエレクトザワツペターとそ  
れに和するはりつである。しかしあさは感冒に

かゝつて居るらしいので、なだめすかして公園に

入つた。りつは元氣よく歩むが、あさはものう  
いやうに足どりをして居る。まだ不平が愈えぬか  
ナアと嘲るは君である。クリフハウスにつれて  
ゆからかと云ふは君である。

その實あさは自動車にのりたくなつたなど、わ  
からぬことを云ふのだ。ハテナ、讀めた讀めた、  
何かたべたひのだらうと云ふとニッコリ笑ふ。困  
つたナア、公園には一寸とキャンデーも得がたい  
し、こうツト、音楽堂まで辛抱しなさい、あそ  
こにはペーナツがあるよとはげました。照る日は  
暑苦しくなりあさはないでもどこかへ休みたき心  
地漸くにして音楽堂の椅子に腰かけペーナツ  
に機嫌を直して、湖畔へ出だ。石のはとりに吾等  
を立たせてN君撮映すること二回、配景と云ひ距  
離と云ひ申分ないと自慢してあつたが、その夜現  
象して見ると何日の間に光線に消されて仕舞ひ  
もの、影も形もなかつたとのことである。日本茶  
園にゆきても一寸と撮映したがこれも徒勞だつた  
よし。惜しいことをした。  
クリフハウス熱がまだ再發しさうなので、その適

合樂としてシューツ行を決定した。二人は手を打  
つて喜ぶのである。

高塀をめぐるしたる一と構、廣き汝を中にして、  
その周圍には色々の娛樂所が設けられてある。

この池の水はいと高き水門より注がれて居るので  
その頂より小舟にのりて急流を直下することが  
出来る。シューツの名もこゝから出でしかと思ふ  
塀に接して私設の電車路がある。池の汀にも電車  
みちを造つて居る。各停車場あり切符賣捌所あり  
て、この附近の地名に擬したる停車場が幾所とな

く設けられてある。つまり市街の縮寫圖である。  
高きは塀の頂をもめぐる様になつて居るので、景  
色必ず面白からふと思ふ。セーテック、レールウ  
エーと名づけて居る。わが二少女はかつて幾度と  
なくこれに乗つたさうで、今日は余り氣がすゝま  
ぬらしい。そのために周圍の娛樂場に入ることに  
した。

先きだてる二少女は手をうつて笑つて居るから、  
何かと思ひのぞきこむと、こはいかに吾顔は蜘蛛  
男のやうに醜く廣がりて手も足もいといと小さく

なて居る。こゝには各種の魔鏡が備えられてゐるので、鏡面の勾排さまざまなるため映像はいろいろと現はるものである。その傍らには一々滑稽なる説明を附して居る。シェーツの料理屋は効能かくの如しと書いてある前にたてば、肥えふとりてビール樽のやうにうつる。シェーツの馬はこの種の人を愛すを書いてあるところに立てば、骨と皮ばかりの瘦ッ坊となる。なるほどこれでは馬も輕くてよからふ。その他倒まになるもの、横つぶれにつぶされたやうになるもの、千狀萬態の己が影に對し、誰れか笑はずに居られやうか。料理屋の前は時ならぬ故素通りしたのがキャンデー屋の前は案の定引きとめられて、花と飾れる賣子娘に、紅葉や白雪や目もあやなる菓子の色々を賣りつけられた。あさはおツかさんのお土産が出来たとうれしがれば、りつはシスターへのプレゼントとポケットをよくらして居る。

突如としてミーこれ乗りたいと叫んだのはりつである。回旋ブランコとでも云ふてよからふか、池の片ほとりに高き高き柱を立て、章魚が足をの

ばした様はその上から幾多のブランコがさがって居る。これが電氣の作用にて廻りいだすのである。あさは一寸と危ぶんでためらったが、りつはすばやく一つの籠に身を躍らした。見る間に回轉しはじめて、高く大空にクルクルと廻りはじめた。帽をうちふりて下をのぞきこむはりつである。あさは下に居て紅のハンケチをふり、喜ばしげに足ふみして居る。十分ばかりにして次第に廻りかたゆるくなり、りつも他の人々と共に下り來つた。吾等はこの辭して音楽の音をしるべにガロッベング、ホールズを訪れた。幾十となく立ちならびて圓陣をつくって居るのは木馬である。それが音楽の音と共に回旋して、且つまた上下に動くのである。のらして頂戴のらして頂戴とわが手にするはあさよスマートなるりつは早くも切符を買ふてニツコリして居る。音楽の響バツタリやみて、先様か代りとなつた。わが二少女も相次ぎて馬に跨つて居る。幼きものをつれたる父もあれば、あでやかなるレデーもある。七十ばかりと見る老女ものツて居る。金髪の少女もある。愛くるしき少年

もある。この國の娛樂はまことに平等にて、老いたるも若きも何のへだてもなく無我無心に遊び戯るゝは流石に大陸の習慣である。I君もN君も乗るよりもうれしと云ひたげな顔つき、この音樂の調子を合せ、この天國の騎馬隊をながめて居る。吾等の前を通るごとに手をあげてさしまねぎゆく二少女誰れにもまして美しく見ゆるも奇だ。彼等の下り來りし頃は時計は三時に近くなつて居る。I君とN君とは急ぎの用事あればとてこゝにて吾等に別れ去つた。

りつとあさよをつれて動物園を見た。晝寢して居る獅子や、ひとりつぶやきて徘徊して居る虎の外、さまで二人を喜ばすものもなかつた。二階の回廊には猿の家ありて、幾百の猿は遊んで居る。こゝも大急ぎに通りこして、パノラマ館にも一寸とぞさこみたるばかり、その他四五種の見せものあつたがもはやかへるべき時刻となつたので、とうとこゝを出ることになつた。四時後は電車はいつもこみあひて、乗心地甚だ面白からぬからである。恰もすきたる電車に乗ることが出來たので、安ら

かに波止場につき、また船の中の人となつた。日はうらゝかにして、波のうねりもいとうるはしくデッキの上のそいろあるきに、吾は病める身をもうち忘れて、詩の句などかすかに誦して居る。りつとあさよもしとやかにわがそばに立ちて、ゆきちがふ船をながめて居る。ア、うれしきサンデーであつた。異境の空にも吾をなぐさむるものあるものを、吾は徒らに前途を悲觀して何とするものぞ。心なくしてとぶ海鷗を見るも、今日は何となくうれしくたのもしき心地する。(丁)

▲珍奇の錆ピン は英國リグアール市の某の僱用しつゝあるものにて一個の人間の眼珠の化石せるもの黄金の椎の内に嵌められあるものにて此の珠は此人多くの學者と共に南米ビル國に探險せし時發見せるなりとぞ

▲女理髮師 はオーストリアにては一定の試験を受けて許可を得たる後開業する者なるが同國にては此種類の理髮師年々増加しつゝありと

▲大食鳥 印度のアザエントトといふ鳩の類の鳥は背は高くして五尺に達し翼を張る時は十五尺に及ぶ此鳥頗る大食にして死又は糞を丸呑にすといふ

此頃の料理

石井泰次郎

○蠣の味噌あへ、

〔原料〕蠣中三十箇、黒ごま三勺、けし三勺、

わさび小一本、なみ味噌三十匁、砂糖十五匁、

味淋酒二勺、水二勺、

蠣を、金串にさして、ちよつと焼き、串をぬき、鍋に入れ、醤油一勺、水二勺、を加へて、下煮をなし皿に取上げ置き、

黒ごま及び、けしを、焙燥にて炒り、山葵は、洗

ひ黒き所をむき去り、すりおろし置き、

味噌は、搗りて、馬尾節にて、裏ごしになし、鍋

に入れ、砂糖、みりん、水を加へて、火にかけ、

とけし所へ、胡麻、けし、わさびを入れ、能くね

りて、少し固くなりし時、火よりおろし、前の、

かきを入れ、箸にて、かきまぜ、皿に盛りて出す、

○蠣の煎汁

〔原料〕蠣中二十箇、湯二合、鹽一夕、醤油五勺

鐵鍋に、鹽少しを入れ、火にかけ、鍋の温まりし

時、鹽を他の器へ出し置き、其あとへ、蠣を入れ、箸にてかきまわし居る時は、かきより水、たくさん出づるなり、暫く煮て、湯を足し入れ、前の鹽、及び醤油を加へて、味を付け、椀に盛り、温きうちに食するなり、

○鯉の雫もどろ

〔原料〕かつをの肉四十匁、栗中三箇、生姜、

一かぶ、栗と同量、酒五勺、かつをぶしけづりて

五勺位の量、醤油二勺五勺、酢一勺、柚子一

箇、山葵、

かつをを、鉢に入れて、熱湯をかけ、取出して、

身をさき、(細く)再び熱湯をかけ、冷水の中へ浸

して直に、箆に取上げ水を切り器に、

栗は、皮をむき、薄く小口に切りて、又細く、線

に切り、生姜も同じく皮をむき、せんに切る、

鍋に、酒、けづりがつを、醤油を入れ、火にかけ、

煮立て、火よりおろし、絹ふるひにて、他の鍋

にこし込み、酢を加へ、再び火にかけ、前のかつ

をの肉、及び、せんに切りたる、栗、生姜を入れ、小

箸にて、かきまわしつゝ、暫く煮て、おろし、小

猪口などに盛り、上より、柚子及びわさびの、し  
ほり汁をかけて出す

しほり汁は、柚子は、上皮を薄くはき去り、輪  
切りになし、山葵はすりおろして、共に布巾に  
包みて、しほりたる汁なり、

○くるみかけ豆腐、

（原料）焼豆腐二本、煎汁昆布三四寸のもの二枚、

水四合、醤油三勺、くるみ一合、味淋りて八勺、

焼豆腐、一つを三つ位に切り、鍋に水を入れ、底

の方へ、昆布を敷き、其上へ、切りたる豆腐を並

べ火にかけ、醤油を加へ、四十分間位、よく煮込

むなり、

其間に、くるみを、深き鉢に入れ、熱湯をそそぎ、

少し置きて、細串を以て、甘皮をむき去り、搗盆

に入れ、つきくだし、鍋に入れ、味淋の煮切を加

へ、火にかけてとかすなり、

前の豆腐を、汁氣を切り、皿に盛、上より、くる

みを、かけて、出すなり、

● 課 題  
● 切 題  
● 賞 品  
● 選 評  
● 投 稿

短歌募集

前號の募集は發行日の遅れたため切に間に  
合はず従つて投稿も少なかりし故すべて本月分  
と共にすることゝせり讀者乞ふ諒せよ  
但し賞品は約束通り

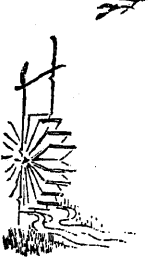
隨意

毎月十日

三光に粗景を呈す

本會

用紙「はがき」にて本會宛





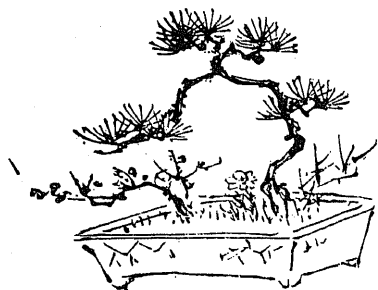
無聊吟社句集

鹽野奇零

金襴の製装にふれたり花郎花  
秋老ひし不二の姿や夕まぐれ  
煙立つ家とならふや秋の山  
葉隠れの熟柿をねらぶ小猿かな  
繪馬堂の繪馬吹き落す野分かな  
山の端に星の流れて野分あと  
白萩や戀にすねたる若き尼  
牛曳て出る家低き花野かな  
夕日さす野中の塚や赤蜻蛉  
鳴啼くやまだくれきかぬ夕あかり  
雲一朵ちぎれて飛ぶや秋の空  
耳につく時計の音やきりぐす  
見れば又菊作る氣になりにけり  
無道作に出來て威のある案山子哉  
棉干すや此頃多き赤とんぼ  
焚火して酒温むる木賃かな  
雁渡る堅田の月や浮御堂  
宿直の先生を訪ふ夜寒かな  
芒野や名譽を遂げし武士の墓  
貢ふた子の手眞似して居る踊かな  
鳴啼くや田越しの家の物靜かな

5 同 雪 同 同 霞 同 同 古 同 三 同 同 湖 同 同 秀 同 同 緣  
 上  
 女 舟 松 庵 笑 月 子 陸

關の月は崩れたまゝや花すゝき  
朝冷も知らぬ色なり雁來紅  
今掃た庭に飄れて萩の花  
讀返す文に涙や秋の暮  
松風の奥に星あり遠きめた  
殘る蚊や僅か一つが耳につく  
夏暮めた茶屋は留守なり秋の山  
門口や柳は散りて星月夜  
足元に鳥の羽音や秋の風



三十一

同 同 同 同 同 奇 同 樂 同

署 水

## 婦人と親族法

太田 英 隆

### 第五章 親 權

育兒上親權の性質を知つてゐることは餘程必要でありませう。兒童を養育するのに賞罰と云ふことは何人でも行はなければならず、又躰する點から大切なことであります。賞するのはいくら賞しても法律上に差支はありませんが、罰するには其度を過しますと法律の制裁を受けねばなりません。こゝ申せばある御方は變に思はれるでせう。親が子を罰するのは自由であつて、如何にしてもよいではないか、それに法律が關係するなどは、とんでもないお世話だと。成程一應御尤千万であります。が併しです。これは一を知つて二を知らない議論で眞理とは云へません。なぜかと申しますと、親が親らしい人ばかりならよいですが、中には十人十種で、らしくない親がよくあるものです。子を懲戒するのに度が過ぎて、負傷させたり殺したりすることは例のないことでなく、時々新聞で

も見る所です。それに親にも繼親と云ふのがありまして、食事を爲せないとか、雪の降る夜中に外に立たせるとかするやうなことは、よく芝居にでもあるではありませんか。こんなことを新聞や芝居で見たときに皆さんはどんな考へを起しますか。只事實を寫したまでのものでも、殘酷な親を見ては、頭の一つも打ちたいやうな氣がしませう又全時に子を可愛想だと思ひませう。さうなくてはならないのです。これが所謂人情とか同情とか云ふものであります。法律は理論の一天張りのやうに考へられますが、どうして、人情と云ふこともよく知つてゐます。又粹なことも知つてゐますよ。それじや親權とは全体どんなものだとお尋ねになります。それをこれからお話しするのであります。

#### 親權の性質

まづ親權の定義を上げて見ますれば、親權と云ふのは法律か子の身分や財産について其家にある父又は母に對して與へた權利及び義務の集合であります。

と云ふことが出來ます。この定義によりますと、父母でも子と共に家にゐるものでなくては、この權利を有しません。

法律がこの親權を設けた譯は、親より子の爲めに設けたのであります。元來親はその子を養育し教育する義務を有してゐるのであります、その義務を盡すにはよく其子を養育し得る状態に在らしめなければなりません。そうするには先づ親にこれを制御するの權を與へる必要があります。又子自らその利益を保護するの能がありませんから父母はこれに代つてその利益を保護せねばなりません。そうして親權はこの點に付ては子の利益を保護するを以て目的としますから、親權を行ふ者がなす行爲の範圍は子の利益を害せないのを限度とし、その不利益である行は決してこれを許さないものであります。

親權を設けた理由は右述べましたやうに、子の直接の利益の爲めでありますが、又國家及び父母も亦これが爲め間接の利益を有するのであります。その國家の利益としては、親權の定めがないと

は教育のない不良人民が多く出來、國家の自存及び發達を妨げ、財産管理の能力のない者の財産を抛擲するは國家經濟の利益を害するのです、又親權を行ふ者の利益と云ふのは、子が完全に發達するとせないと、親の利益に重大の影響を及ぼすことは言を俟たないのであります。

### 親權と戸主權

皆さんはこんなお考へは起きませんか、子は親權に従ふのは當然であるが、若し親權者が戸主でないときは、子は親權者と戸主との兩方に従はなければならぬから、ある事を親權者はこうせと命じたとときに、戸主はそれはいかん私の言ふやうにせと、二者の衝突が起つたときにはどうするかと言ふことです。これは起り安い疑ひですが、よく法理を考へますと衝突はないと存します。親權は子の身分及び財産上の利益を圖つて設けたもので、戸主權は家の利益の爲めこれを設けたものであつて、その目的が少しく異つてゐます。と言つてもこれでは解りかねませうが、例へて言ひますれば、親權は、子の教育、懲戒、財産の管理等

に就いてあるもので、少しも戸主權と關係はありませぬ。戸主權は家族の居所を定め、その婚姻、養子縁組を許したり、又は家族がその家を辭して他家に出入する時に同意不同意を唱ふる權に過ぎませぬ。

### 第一節 總則

この節に於きましては、親權を行ふ者は誰であるか又親權に従ふものは何人であるかを述べる都合であります。一寸考へると、親權が親が行つてこれに服する者は子であるから、少しも六ヶしくはないではないかと思はれますが、凡て物事はさう簡單に行くものではありません。殊にこんなことは實際に當りますと中々複雑なものでして、いかな法律家でも困ることがよくあるのです。ではその複雑なことを法律ではどんな風に定めてあるかと申しますと、民法第八百七十七條に「子は其家に在る父の親權に服す但し獨立の生計を立てる成年者は此限に在らず」と定め、人事編第四百九條に「父が知れざるときは死亡したるとき家を去りたるとき又は親權を行ふこと能はざるとき

に家に在る母之行ふ」とあります、これでは詳しいことは素人には解りませぬ、これを法理上から種々解釋して複雑な社會に應用するのであります。條文で一々の場合を定めたら、民法などは五百万條とか八百何十万條とか云ふ程規程せねばならぬと思ひます。私は右の條文につきて少しく説明して見ませう。

まづ親權に服する者は誰かと云ふ點より述べませう。原則としては、親權に服する者は子の成年と未成年とを分ちませんが、例外として獨立の生計を立てる成年者は親權に従はなくてもよいとなつてゐます。そうして獨立の生計を立てる程度は事實問題として法律では定められんことですが、自分の資産若くは勞務にあつて生活するのを云ひます。茲に皆さんが心得ておいてよいことがあります。獨立の生計を立てることの出来ない成年者が、子を産だときは、自身は親權に従はねばならぬから、その子も父の親權者に従ふべきかと云ひますと、その子はやはり自分の親に從ふべきであります。それはそのはずです。親が子に對して親

權を有せないとあつては、親たるの甲斐がないのみならず、子の性質を知らない人に委ねばならぬ不都合になります。併しこれは成年の親たるべき場合でして、若し未成年者が子を産んだときは、その父たる未成年者に對して親權を行ふ者がこれに代つて親權を行ふのです。

次に親權を行ふ人に就きて述べます。原則としては家に在る父ですが、私生子の如く父の知れぬとき、父が死亡したとき、又は分家を爲し、廢絶家を再興し、他家の養子となり、養子が離縁を爲し、入夫が離婚を爲したやうな時にその家を去つたとも、又は不在、心神喪失等によつて親權を行ふことの出来ない時は、家に在る母が行つてよいのであります。

繼父母又は嫡母も親權を有しますが、これ等の者は子と自然の血縁を有しませんから、愛情に乏しく相敬視することがあります。それでこれ等の場合に親權を行ひますには、後見に關する規定を準用することゝなつてゐます。

## 名士の家庭

(井上文學博士の家庭)

和洋の家

龍東生

三十四

紅塵滿々たる帝都の北隅、小石川區表町百〇八番地に日本家と西洋館との二棟より成れる門がまへの家あるを見る。これ即ち我學界のオーソリティーとして知られし文學博士井上哲次郎先生の住宅なり。東都に至る所人馬織るが如き狀況なるも、こゝら邊りはいと靜かにして樹木は森々と生ひ繁り、秋の夜半にすだく虫の音は、武藏野の昔を忍ばしめて餘りあり。博士の居間は西洋館の長方形なる二階の一室にして、正面に掲げたる「養浩然之氣」の額は、博士の恩師なる中村敬宇先生の書かれしものなり。その日本造の家は、多く召使の住居及び炊事等に當たるものゝ如し。博士には三男三女ありて、長女雪子嬢は文學士吉田熊次氏に嫁し、他は悉く家に在りて、夫人（継子）の下に養育されつゝあり。而して此の他に書生一人下女二人守一人を召使へるが、これ等は皆地方の小學校教員に人撰を依頼せるものにして、口入屋より身上の知れざる者を雇ふが如きことは絶へてなさるよし。この點は何人も注意すべきことにして、身元性質等の知れざるものを使用し、少なからざる迷惑を來すことは世上塵々耳にする所なり。殊に子守の如きは幼児の養育上最も大切なものなれば、充分なる注意あらまほしきものなり。

縫子夫人と家庭

家政の上手下手によりて、一家をして春の如く賑はすことも又秋の如く林しすることも出来るものなれば、吾人の生活上家政は最も大切なものなり。而して家を治むるには婦人は重要な地位を占むるものなり。賢母良妻と云へるも畢竟家政を上手に行ふことを得べき婦人を謂へるものにして、女子教育の本義も亦茲にあるべし。博士の家庭が清かなりと云へる世評の存するも、つまり縫子夫人の濟家が巧なるによるならん。夫人は鋭意育児に盡瘁され、又夫の爲めに一身を捧げられつゝあり。

夫人に就きては美談の多くあることならんが、その中夫人のこゝとをよく知れる人より聞きし一二を記さんに。曾て博士が外國へ留學されしとき、夫人はよく留主宅を守られ、傍ら漢學を修養されしのみならず、又婦人としての道を一通り學び、上流社會の夫人として聴かしからぬに至られしよし。されど、夫人は謙讓にして少しも人に高振らず、恰かも他人に對しては何物をも知らざる如くなりしと。今日婦人の通弊として少し學問を爲し、又は學者の妻となれば、兎角鼻にかけたがる風あるも、こは婦人の美德を損するものにして、最も愼まざる可らざることなり。世の婦人たるもの此點に於て夫人に大に鑑みて可なり。

育 兒 法

予が訪問せし時は多忙を極められし最中にて群しきことを聞く能はざりしも、一二に就き語られし點を左に記さん。

衣服、衣服は夏は單衣冬は綿入れと言ふ如く四季によりて各々異なるも、こは氣候上よりのことにして時々例外のあることあり、

例へば「土用中半に秋風ぞ吹く」と云へる如く、盛夏の候にても單衣にては寒き時あり、かゝるときは夏なりとて單衣のみに限らず、殆にても何にても溫度相當の衣類を着するを可とす。又冬にても暖かき日には綿入に限らず、それ相應の物を着せしめざる可らず、されば博士は常に寒暖の度によりて衣服を着換へさしむるよし。斯の如きは何人も知れる所なるも、實際に行ふ者少し。衛生上注意あらまほしきことにこそ。

通學、兒童を學校に通はすに運動上遠路をよしとなすものあるも博士はこれに反して近路を採らるゝなり。その理由は、全く便利に基くものにして、兒童の送り向又は急用の場合に於て近路は大に都合よし、運動は他に種々の方法あれば不便を斥けてまで遠く通學さしむる必要なし。故に博士は、二番目の令嬢は第二高等女學校、他は礪川小學校及び幼稚園等何れも近路の學校を選ばれたるなり。

起伏、人によりて夜十二時又は一時頃まで眠らず、朝は太陽の七間も東天に昇るも尙ほ起さる者あり。衛生上より見るも一家の規律の點より云ふも、甚だ惡しきことならずや。古より節儉を重ずる人は、朝早く起ると遅く起ることを以て家の興亡の兆とまで云へる程なれば、大に注意すべきなり。博士はこのことをよく守られ、冬と夏とによりて多少時間を異にせるも、夏は五時半より六時半、冬は七八時の間に必ず起き、夜は十時より十一時迄に寢に就かるゝよしなり。

運動、小兒ほど運動の好きなるものはあるまじ。小兒に運動をなさしめざれば、彼等は生活の大半を休止せしめられたるなり。故に

充分適宜の運動を與へ、その生々の發育を完ふせしむべし。幼稚園學校等に於ては相當の運動法を設けたるも、家庭に於てはその生活の程度によりて、この設備を果すこと能はざるものあり。されど、運動はあながち多くの金を要せず、少金にて比較的完全に近きものを選ぶことを得べし。而して博士の住宅の周圍には樹木森々と生ひ繁り、空氣清らかなるゆへ恰も小公園の如き觀を呈し、小兒の遊戲するには最も適當せり。庭園にはブランコニテ所ありて、小兒は何時も嚙々と遊び戯むれり。

又博士は知識開發の方法として、成るべく實物を觀せしむる方針を取られ、休日には動物園博物館等を兒童と共に參觀せらるるよし。而して幼稚の兒童にして實物を觀すること能はざるものにしては、多くの畫帖を製しをきて示し給へり。この方法はさすが教育者たる博士程ありて、幼兒教育には最もよく行届けりと云ふべし。殊に田舎に於ては實物教授は困難なるを以て、常に畫帖の如きものにより、兒童の智識開發に注意するには、家庭教育上大切なことなり。

世間往々兒童の教育を學校のみに放任して、家庭に於て少しも顧みざるものあり。こは多く下層社會の教育なき人に於て有するものなるも、時として相當の教育あり且つ中流以上に位せる家庭に於て見ることもあり。無責任の甚しきものにして、愛兒を不良に陥らしむる親と云はざる可らず。嘆すべきの至りならずや。學校に於て如何に完全なる教育を施すも、家庭に於てこれを打消すに於ては何等の效なく折角の學校教育も水泡に歸するなり。親は子を養育するは當然の義務にして、又一面より見れば權利と云ふこ

とを得べし。この義務を負ひ權利を有する親にして、相當の教育を施さざるは、これ權利を履行せざるの罪あるのみならず、又人としての道を盡さざるものなり。而して博士の青兒に留意するは勿論、夫人も銳意をこゝにそゝがるものゝ如し。凡そ家庭教育は父母の一方のみにては完全に施すこと能はず、必ずや父母共に共力一致以て之に當らざる可らず。

### ●衣服の汚點抜き

インキで汚れた時は、アンモニヤ水とアルコールを等分位に混じ、筆か小刷子で幾度も塗るので、すると自然々々に落ちます油脂類は毛織物の上に敷き、揮發油を塗りそして吸取紙で吸ひ取るので、用具は前申した品でもよく、また海綿でもよろしい、敵は最初日光に晒し、ブラツシでよく掃き後アンモニヤの薄い汁で洗いなさい、夫から婦人方によくある小兒の尿の掛つた時です是は薄くしたアルコールに少量の硝酸を混じて洗へばよい、併し硝酸は地を痛める憂がありますから、使用には餘程注意しないといけません、之を替めてみて酢味を感じぬ位でよろしい

雜 錄

●女子高等師範學校彙報

▲ラッド博士の講演 同博士は先月 上旬の頃 同校内に於て數回教育學の講演をせられたりと云ふ。

▲附屬女學校運動會

同女學校は先月廿一日

午前九時より隣地なる東京高等師範學校附屬中學校運動場にて運動會を催されたり當日は前日の快晴に引き換へて朝來の曇天にて午后よりは小雨さへ交りたりしが、中々の盛會にて同四時頃無事に終了閉會せりと云ふ。

●本會常集會

豫告の如く本會第四十二回常

會は去月十三日午後一時卅分麹町區九段坂下なる精華幼稚園に於て開會せり來會者五十餘名、開會の辭、同園長寺田氏の挨拶、保母合唱の唱歌の後過日英國より歸朝せられたる宮川壽美子女史の日本家庭と英國家庭との得失につきて有益にし且つ興味ある演説あり(別項參照) 右終りて實

習科生の唱歌「想起」を聞く小春日和のうららかなる日かげに來會者一同樂しげに語り合ひて午後四時三十分散會せり。

●東京で掘つた鼠 東京にベスト發生以來市役所で買上げた鼠の數を聞くに初の程は統計表も不明で分らぬ所あるも三十五年十二月廿八日より去る十八日に至る迄の數は五百六十八萬九千三百五十一匹なりと云ふ、而して鼠の尾は大なるものは六寸、小なるものにては生後五十日を經過したるものは二寸乃至三寸の尾を有す若し假に之を平均四寸とし右の鼠の尾を繋ぎ合して見るときは、其長サ百七十五里廿一町餘で東京より、岡山地方に往く程の延長なり、又之を代金に見積るときは一匹十錢のこともありしも通常は五錢なれば其價格二十八萬四千四百六十七圓五十五錢となる尙ほ鼠の買上げには懸賞金あるを以て是等を合算すれば更に多額に上るべきも去る四月よりは此懸賞金を中止したるに係らず各區で鼠の買上げをなす數は以前と異なるをなく一日平均の買上げ四月は約四千五百に五千而して本月は平均八千に上らんとする



の形勢あり又最近の調査に依りて之を區別すれば、最も多きは神田區にして深川、芝の二區之に次ぎ而して最も少きは赤坂區なりと。

●古今未曾有の大水晶 武田山梨縣知事の談に依れば今回同縣下北巨摩郡増富村の山中に於て古今未曾有の一大水晶を發見したる旨報告ありたるに付き實地に就て取調べしに右は高さ四尺五寸、直径一尺五寸重量一百五十貫以上のものにして山中より搬出するに、頗る手数を要するを以て共進會協賛會は一百五十圓の補助金を與へて、不日出陳せしむる筈なりとぞ因に記す目下共進會出陳の水晶は最大と雖も七寸に過ぎずして其賣價一萬八千圓なりと云へば前記大水晶の如きは其價格莫大なるべしと。

●教育科音樂科の女子合格者 教員檢定試験に女子の志願者及合格者の多きは裁縫家事の二科にして次は音樂國語なるが本年の豫備試験音樂科の合格者中女子は新潟縣小田よし子氏一人又教育科には和歌山縣門とよの氏合格せり教育科に女子の合格は例年極めて稀なり。

●ライスカレーの種 神田區猿樂町廿五番地岡島商店より製造發賣のライスカレー種は主人が多年苦心と實驗の結果乾燥固形製なるを發明せしものなれば旅行用携帶等にも手數も道具も要せず且つ乾燥製なれば腐敗變味の憂ひ無しとの事なり。

●於ける子供の日曜日 日曜の安息日を分けて、樂しみにして居る子供等には何うか一日愉快な遊びを取らせたいものです、此の點に就き多年獨逸の家庭に親しみ其の内情に精通せるドクトル宇良田女史は子供の日曜日に就き趣味ある談話を試みられました。

▲日曜日の遊び事 土曜日の晩からして明日は何處へ連れて往つて下さいます、と子供はサモ愉快げに此事を兩親に尋ねます此時兩親の答へは多くは「郊外へ散歩に連れて行きませう」とか或は「お伽芝居へ見物に遣りませう」とか左もなくば胡桃のある時などは「裏の胡桃を一緒に落さう」とか「繩飛びをせませう」とか總べて親達が子供の境遇になつて、少しも大人の心持を出さずに子供の趣味を充分に與へて遣るやうにします、故に子供と

共に遊ぶ時は父も母も全く子供の氣になつて遊びます。

▲面白いお伽芝居 是等の遊びの中で郊外へ連れ出すのが一番多く之れは何處の家庭でも行ふ事です。自由自在に遊べるので子供は非常に郊外運動を楽しみにして両親にも屢々之れを請願するさうです、其の次はお伽芝居で大抵午後の三時頃から夕景へ渡つて興行し其の時間は凡三時間位です。之れは教訓と趣味を兼ねた有益な興樂で、彼國の子供は日本で大人が芝居を楽しみにするやうに大層其日を待詫びて居ます。

▲御馳走はしない 郊外へも公園へも亦た芝居へも連れて往かぬ時は両親が一緒になつて庭園で繩飛びや毬投げをいたします、左もなくば子供の友達が尋ねて來ますが日本のやうに親達が菓子や果實を無暗に與へるやうな事はしません、珈琲でも御馳走すれば夫れが關の山です、夫れ故晚餐なども決して出しませんから其の時刻が來れば遊びに來た子はサツサと歸ります此の規律はナカ／＼厳重ですから遊びに違つた爲め子供が胃腸を傷めて

來たと云ふやうな事は決してありません、日曜日の晩は平日の如く夕飯が畢へると七時から八時迄には必ず臥床に眠らせ宵張りなど確く禁じてあります。

●逸家庭教育の二法 是も同女史の談話なるが獨逸の家庭では子供の悪い行ひを矯正する事に就いては種々苦心して教訓すべき方法を研究せらるゝが其中の一ツに「ニコライ」と云ふのがあります之れは毎年十一月の廿一日に孰れの家庭でも行ふ事です。夫が子供の惡癖矯正には有力なる効を奏すのです、此日の夕景になると一人の中學生が左もなくば其年配の青年が突然家へ這入つて來ます、其の服装は長い獅子の毛のやうな毛皮の外套を着て恐い顔に扮して手には太い洋杖を握り何處までも怖ろしげな扮装でヅカ／＼と子供の側へ來るのです、尤も此の青年は両親の知つて居る筈ですが此の時は飽迄父や母も知らぬ人のやうな風をして居ますから子供は喫驚して震へ上らん計です、此の異様の青年は戦々怖れる子供を容赦もなく腕を捉へ暗い一室へ連れて往り一年間の悪い行ひを諷

ねるのです、例へば、親達に何んな不孝をして言付けに背いたとか或は「何々を壊したか嘘を吐いて眞實の事を白状しなかつた」とか總て自分のした悪い事を此處で白状させるので若し白状しなければ洋杖を振つて、打据ゑん計りの權幕を示すから子供は驚いて悉皆白状して仕舞ひます、過ちを悔いて白状すれば異様の青年は袋に入つた菓子などを與へ「將來此様悪い事をしてはなりませんよ」と懇に訓戒をなし次ぎの子供があれば又其の子供を此の通りの方法で訓ねます爾うして順次に大人まで調べますので、矢張り大人にも袋の菓子と與へます、此ニコライと云ふのは子供の時代には非常な怒るので「嘘を吐くまい」と云ふ事や「悪い行ひはしまい」と子供心にも考へますから之れが兒童のために善い教訓になるのです獨逸の子供は八歳位でも随分剛情を張ります、此日異様の青年の前に立つては泣出さん計りになつて直ちに改悔し白状いたします。(報知)

●五二共進會の發明品 目下開會中なる五二共進會には專賣特許品三百點の外實用新案に係るもの

四百五十點を陳列せる由なるが右の中殊に目立ちて見ゆるは左の數種なり。

▲蠟燭製造器 二つあり一つは此種の器械發明の卒先者にて佐賀縣眞崎照郷氏のにして他は油臭きが常なる機械製のを臭からずまづからぬ様に苦

心せしは大坂の田中源太郎氏の發明なり

▲莖切器 螟蟲を生ぜし稻の莖は一々刈るに手數を要するに鐵棒を差入て容易に刈れる様にせしものにて五六錢の廉價なる故農家には非常に歡迎さ

る發明者は静岡吉岡寅之助氏

▲上簇器 長野長谷川兵次郎氏の發明に係り養蠶の際用ふるまぶしと稱し藁を立てたるもの、年々無駄になるを惜みて工夫し藁を立てたるを疊めは

小なくなり保存に便にせし有益のもの十錢許にて賣れるが特長なり、階上東側には製作品多し

▲臺所道具 是は特許局の懸賞募集に當選せしもの第一に組の足を鐵輪にて付け裏表とも用ひられ

此輪が釘に引懸けられる様になつて居るもの

▲湯沸 早く沸く様に鐵瓶の下部に當る處に空氣抜きの穴を明けしもの火力の要り方少く直段は鐵

瓶とも一圓五錢とは輕便なものの新案出者は東京坂井寅三郎氏

▲紙製氷嚢 東京田中篤次郎氏の發明膀胱の如く臭くなく安さが取り柄なり

▲箔製造機 箔と云ふもの手で打つより外には出来ざりしを器械にて容易に上手に造り得る様にしたり

▲洋袴釣兼シャツ 何方が兼か分らず兎に角シヤツに洋袴を引懸る様にしたものの用ひて見ねば効能は分らぬらし工夫せし人は東京樋口太吉氏

▲桑皮處理方 桑の皮は養蠶地方にて澤山に棄てらるゝを是を製して紡績し織物を作る發明なり

岡藤井熊吉氏の發明にて見本の毛布は誠に立派な出来追ては會社を作つて盛に桑の皮紡績をやる見込の由卅万圓の資本で一年に十九万圓儲けると云ふ目論見書はちと仰山なる可さか

▲廣瀨表 静岡井上牛藏氏の新案竹をもつて下駄の表を作りしもの

▲人造麻布 東京大石保氏の新案麻同様に洗濯にも堪へさらしとして着心好き筈直段は一反二圓

七八十錢

▲耕機 久留米耕會社の發明にて耕糸は従前手にて染め手數の懸りしを機械にて出来る様にせしもの

▲新毛斯綸 木綿にて毛斯綸同様の光澤品質の者を作りしなれば直段安く持よく体裁よし京都杉村甚吉氏發明

▲輕便洋傘 洋傘を四つに分離し一尺許に疊みて懷にも入る様したり即ち輕便と云ふも稍や洒落の如し發明人東京熊野吉藏氏は是が先づ重立しもの

なり頗る有益のものあれども加工的にして創造的のもの尠きは蓄音器活動寫真など西洋の驚く可き發明に對してや愧かしき感なき能はず

●東京市の肺結核病(昨年中に増れ)肺結核病の恐るべきことは今更云ふまでもない、世界の學者が競うて其豫防法を研究して居るにも拘らず年々此病

氣の爲に瘧れるものは驚くべき程で、他は借置き東京の市民が昨年中に幾許犠牲に供せられたかと云ふに、警視廳での最近の調査によると

總死亡者

内肺結核死亡者

男 一七、五八八人  
女 一六、六五一一人  
二、八二九人  
二、八二七人

計 三四、二三九人  
五、六五六人

此表で見ると肺結核死亡者は總死亡者の約六分の

一を示し、東京市の全住民百二十七万七千五百五十三

人(内男六十六万三千二百二十二、女六十一万四千

〇三十一人)に對し、一万人に就き四四、三人の比

例である、次に此死亡者の年齢に就て觀察すると

二十一歳以上四十歳迄の少壯有爲の人に最も多く

職業に就て觀察すると無業の者即ち所謂徒食者に

最も多く之に次ぎては各種の職工、商人、勞働者

官公吏、會社員及び銀行員、學生等の順序で、殊

に飲食業者に比較的多いのは稍や注目すべき點で

ある、更に轉じて一万人に對する各區の比例を取

ると次の通りである

深川五一、七△下谷五一、二△芝四九、六△本所四八、二△本郷四

六、六△淺草四五、六△京橋四五、四△四谷四四、五△麻市四二、

九△神田四二、三△小石川四二、〇△牛込三八、〇△麹町三七、七

△赤坂三二、六△日本橋三一、三

平均 四四、三

以上の調査によつて見ると肺結核病の都下に於け

る蔓延の如何に恐るべきかを知るに足るが、切之  
が豫防の方法はどうすれば良いかと云ふに、細か  
い簡條は種々あるけれど其中の最も眞髓ともすべ  
き點は左に示す通りである

△公衆をして本病に關する知識を得せしむること

△醫師をして可成的此病氣の初期に診斷を決定せしむること

△貧困な肺結核病者は一定の場所に收容し無代にて治療するこ  
と

△既に此病氣に罹つたものは公德上他に傳搬せしめざるやう注  
意せしむること

●小學女教師の清國招聘 近くは千葉縣銚子染織  
學校卒業生野口よし子(十七)清國北京の教師として  
聘せられしを始めとして近時わが女流教育家の家  
庭教師として襁褓として或は教員として清國に渡  
航するもの多きは確かに女子教育界の一轉化とも  
見る可きなり本郷前田侯爵家々從田中駿吉氏の  
妹たか子(三十三)は此度清國湖南省常德府に新設され  
たる幼稚園の主任襁褓たるべき約成りて去る八日  
を以て東京を出發せしが同女は金澤市の出身にて  
夙く東京に出て京橋の村山小學校を首め二三の小  
學校に訓導として教鞭を執り五年前本郷西片町誠

之小學校附屬の幼稚園裸婦となりて今日に到りたるものにて、恰も清國より申込を受けたる府立第三中學校長八田三吉氏は種々搜索の結果同女を恰當の人物として選定したる次第にて月俸額は差詰るめ八十圓なる由同女は渡清後彼國に於ける模範幼稚園を作らん意氣込にて種々の保育に關する實用上の器具をも買入れ行けりと。

●買喰する母に盗兒多し 方々の感化院や養育院にて感化教育を受け居る兒童は職業の比例上商人醫師官吏の家庭に多く而して性質の共通なる缺點は百の九十九迄泥棒根性なりと云ふがさうば此根性は何處から湧出て來るかと云ふに東京感化院及び教育院感化部等の統計によれば中流以上の家庭の兒童に盗心の起るは大抵父母が溺愛より金錢を濫費せしむるに生じかくして自然と虚榮心が劇しくなり父母より貰つた丈にては逆も満足が出來ず初め家庭の物をチョロまかし次に友人などの品物を盗むに至るものにして其れで大概身邊を飾る資本にするなりと云ふ、又下流子弟の盗心は其母が買喰ひをする習慣ある者に一番多く自然其

れを見真似て買喰をなし果は盗心を起すやうになるとの事なり此又買喰の習慣は摘喰ひより起ると云ふ事にて會て東京感化院の厄介になりたる年俸三千圓も取る某高等官の妻君の如きは身が上流社會に生しにも係らず買喰ひが大好きにて其爲め遂に自分の嫁入道具迄も喰つてしまひ子迄なした中を離縁されたりと云ふが其子供が又自然に買喰ひを好み是も感化院に送られたりとの業因も亦恐ろしからずや、買喰ひ摘喰ひ迄やる細君達はチト嗜まれて然るべし。

●冷氣と呼吸器病 別頁にも記載の通り東京市に於ける呼吸器病の恐る可きものある折柄近來氣候不順にて冷氣俄かに催ふすかと思へば急に小春日和の溫氣となるため朝夕油斷せば忽ち感冒に罹り頭痛發熱に苦むこと往あり、殊に從來呼吸器病即ち氣管支加答兒の如きものに胃されし事ある人は兎角に皮膚軟弱にして此際充分の注意を加へざれば感冒に犯され易く現に感冒の爲め急性氣管支加答兒を發し或は已往症を再發せしもの尠からず且つ最も注意すべきは昨今肺結核患者の著しく

増加せしことにて是等患者の訴ふる所を聞くに多  
くは十數日若しくは數十日の長き間風邪の氣味に  
て適當の療法を行ひしも一向に回復せず且つ數日  
來咳嗽を發して身心の疲勞を感ずること太だしき  
より万一他病にあらざる無きやを疑ひて診療を乞  
ふべく來りしと云ふ者多し依つて之を診するに既  
に業に肺炎の加答兒症狀顯著にして疑ふまでも無  
く初期の肺結核たるを斷するを得るなり元來本症  
の自覺的容体は盜汗、發熱、咳嗽、倦怠、疲勞、  
下痢、食慾不振、熱量減少等にして就中盜汗と旦  
喘潮熱とは診斷上必要なる參考症狀なれば寢汗を  
催し且つ原因不明の發熱持續せば速かに醫師の診  
斷を乞ひ寸時も早く治療の途を盡して病勢の尙ほ  
昂進せざるに加養せば如何なる大患と雖も決して  
難治のものにあらず虚弱家は此際用心して第一に  
感冒に罹らぬやう能く注意すべきなり

(和田ドクトル談)

●宮川壽美子女史 去る十月十三日本會常集會  
にて特に本會の爲め有益なる演說せられし同女史  
は明治卅五年家政學研究の爲め文部省留學生とし

て英京龍敦に留學を命ぜられ爾來四年の今日首尾  
能く業を卒へて去月廿八日歸朝せられたるなるが  
▲女史の入學せし學校は一種の家政女學校内の  
家政師範科とも云ふべき所に此處にて料理、洗  
濯、應用化學、裁縫、衛生と看護急救法一般の教  
授法等を約二ケ年間研究せり扱て  
▲英國と家政學と云ふとに付大に世界の注意を  
惹く事あり同國は世界一般の認むる如く上下の社  
會を通じて富の程度頗る高きが故に二三十年前ま  
では家政に屬する上記の料理、洗濯、裁縫其他の  
如きは何れもハウス、メイドに命ずるか左もなく  
ば外に出して洗濯させ若くは裁縫せしめたるもの  
なり然るに今より十五六年前に女子教育の勃興を  
來し女子は必ず家に在りて内助の効を奏すると東  
洋に於ける日本 夫れの如く必ず又家政に要する  
總ての科學を研究するの必要ありとて頓に  
▲家政女學校の勃興を見るに至れり然れど高貴  
高官の令嬢や夫人中入學するは極めて稀なるな  
り幾多の家政女學校は何れも中流以下の居住する  
東京にて言はば淺草とか深川の場末とか乃至四谷

の街並とか云へる處に其の設立を見るに至り爲に女史の在學せし女學校の如き極端に言へば四谷の鮫ヶ橋谷町にも似たらん處に設けあり其の

▲一學期の授業料は日本の金に換算して九十圓にて三ヶ月間を一學期と定めれば一ヶ月の授業料は三十圓にして女史が後に在學せし大學の如きは一學期百廿圓なりし

▲理論と實際 日本の如く決して理論には重きを置かず奈何なる事にて理論より先づ實修を先にする云ふ風にて家政女學校の如きは特に此の主

義に則り料理科は云ふに及ばず洗濯科の如きは通學生は兩親の裕なり小供の物なり總べての洗濯物を學校に運び來りて洗濯をなし而して旋て其の講義を聴くこととなり居れり同校

▲卒業生の前途 と云は各區(東京に例すれば)

に設けある市立貧民女學校の家政教師か小學校の家政科の専科教師となるもの最も多く而して如上の貧民學校は素より半官費の學校にて其の卒業生は多く上流社會其他のハウスメードとして雇はれ居り小學に奉職する者は規定に依り最初八十圓宛

の俸給と定まり居れり是れが年効と成績とにて百二十圓まで増俸さる規定なり其後女史は女子大學に入學し公衆衛生を専攻したるが此の公衆衛生科なるものは奈何なる必要に應じて設けられしものなるかと云ふに其は

▲女子衛生検査員 の養成處とも云ふべき處にて東京各區に設けある衛生組合の如きものの中には必ず此の女子検査員を要すると云ふに在り即ち個人衛生なるもの謂は我が春秋二季の大清潔施行の當時乃至日頃一個人の邸宅を訪問して衛生法を注意する際には必ず家庭の情實に精通する婦人ならでは到底目の及ばざる處あり殊に家庭に於ける看護法及び育児に關する衛生の注意は必ず婦人に限ると云ふ處より其の検査員たるべきミス、ハルパートを校長として斯る科目を設けたるものなりと云ふ

●幼稚園手技圖形 女子高等師範附屬幼稚園にて定められたる保育要項並に同附錄手技圖形は全國幼稚園の參考となる節多ければとて文部省にては右の主要項だけを全國各幼稚園に配附せしが小石



川區江戸川町なる高等女子學會にては、今般之を上梓して各需用者の求めに應ずる由詳しくは新刊案内を見らる可し。  
尙本會々員には特に割引して販賣すると云ふ。

## 新刊案内

●「幼稚園手技圖形」定價金壹圓八拾錢  
先般文部省が各府縣廳を経て全國の各幼稚園に配付したる女子高等師範附屬幼稚園保育要項に元來附録として手技圖形なるものありしが是は印刷に多大の費用を要することゝて配付の運びに至らず。然るに各幼稚園にては何れも熱心に其出版を希望し居たりしたために小石川區江戸町一二番地なる高等女子學會にて奮つて之を出版せるなりと云ふ。体裁は横綴和装の美本にして圖形は何れも數度の探色摺に印刷せられたり。而して本會々員には特に割引して一部金壹圓五拾錢にて其需めに應ずる由、希望者は此所の全文を切り抜きフレール會員たる事を書き

添へて注文せらる可し。

●「子ども」巴秀三郎補譯

「子ども」を背負ふことは衛生上宜しからぬ事なりとは毎々耳にしたることとなるが譯者尺秀三郎氏は之を以て文明の風にあらす畢竟未開人の遺風たるに過ぎざるものなれば戦後の日本よりは宜しく此蕃風を掃ひ去る可しとの意見にて世界各國に於ける幼童の背負ひ方、抱き方、等に就きて調査したるプロス氏の著書を本として種々補譯せられたるものなり。幼兒教育者には面白くして且有益なる讀者たるに相違なし。(定價金五拾錢本郷區本郷一ノ七育成會發行)

## ●和洋裁縫大全

本書は彼の小出新次郎氏が一世一代の事業として筆を執られたりとかにて近來盛に豫約を募集し居れり本書を買ひ求めんとする人は向ふ一ヶ年間僅に毎日參錢參厘づ、貯蓄して出れば參拾冊と云ふ大部の本を易すく買ひ求むることが出来る豫約方法書や見本なぞ入用の向は當市青山原宿の女子裁縫高等學院出版部へ端書にて申込みば直ちに送るゝのことである

## 新聞と雑誌

### ●英國家庭の美點（高橋順次郎氏）

私の眼に映じた英國の家庭の最も善い所で殊に日本人が大に感心すべき點であらうと思はれるのは、英國上流の家庭（例へば貴族富豪の家庭）から中等以下の家庭へ漸く自分の子供の教育が出来る位で別に餘裕のないといふ家庭に至る迄、外見を飾るとか表面を立派にするとかいふ風な事が少しもなく、縱令外國人が來たにしても、又はドンナ御客があつたにしても、平常自分達の食べて居るだけのものを食べさせ、平常行つて居る儘の事を見せて、少しも恥かしく感ずる様子が無いといふ事であります。思ふに之は常識が發達して居るのと、家庭の有様が比較的に進んで居るからであります。兎に角日本などの遺口とは餘程趣きの變つた所があり、多くの日本人が普通に通つて居る様に、貧乏はして居ても人が來れば分際不相應な御馳走をするとか無理算段をしてでも外部を飾り立て、他人に己れの短所を現はさない様にするといふ

ふ様な調子で、人をしてその實際よりも善きものに感じさせ様といふ風な、常識に外れた點が少しもなく、自分の家の有の儘にして居る是が最も羨むべき所であると思ひます。家庭の友第四卷第六號。

### ●劣等兒の教育（樋口長市氏）

劣等兒に最も多き心理上の欠損は、感官及意志にあれば補助學校に於ける教授たる、主として、直視觀察の上に立ち、最も多くの時間を實物繪畫等によりて、直觀し、比較し、觀察し、測量し、又その思考せる所を發表せしむるに費さしむべし。例へば、理科地理歴史を教ふるにも、敢て、組織的に立案するを要せず、寧ろ斷片的に流るゝも、實物模型地球儀地圖繪畫等によりて、見ゆる儘に觀察せしむるを主とすべし、又意志の修練の爲めには、體操郊外運動手工圖畫音樂等に多くの時間を割くを要す云々（教育研究）

### ●新日本の家族制度（新渡戸稻造氏）

今日の日本家族組織では、第一に婦人の地位を高めるといふ事が必要である。今日の日本婦人進歩の程度は、丁度今から百二十年ばかり前の英國の女子の狀態と殆んど同

一ではないかと思ふ。今後幾度か改善せられて漸次位置が高まるであらう。一體今日の日本は少年時代で生意氣盛りの時代である。此の境遇中にある今日の婦人に對する救済法としては、宗教に依る外はない。宗教によつて肉慾の盛發を抑制せねばならぬ。又新夫新婦は、その父母と同居する必要がある。父母は自ら獨立生活し得る財産を取置きて、他の部分を子孫に譲ると云ふ事にせねばならぬ。勿論斯の如き組織にすると結婚の年齢は必ず後れて来る。歐米の如く男子は二十五六歳より三十歳の時に結婚し婦人は二十二三歳から二十七八歳位に爲つて結婚すると云ふやうな事にもなつてあるが、其等の如何に關せず。是非共斯る制度にせねばならぬ事と思ふ。然らざれば日本國民は永久に親は子に依頼して、國家の生産力を減じ、子は親の腰をかぢりて奮勵をしないといふ状態になるであらうと思ふ（成功九卷六號）

### ●日本の女性（下田獸子氏）

我が國固有の特色は、極めて、純潔なりしが爲に、其氷の如く潔く、雪の如く眞白なりし民の徳性には、他邦の其れの如く、仁

と號け、愛と號け、將た慈悲と號るが如き、立派なる名稱の存在だも、必要を認めざりしなるべく、且其他邦より持ち來たせる、各般の教義も文物も、入る儘に、この純白なる民性に染着し、殆ど固有の色の如く成りて、斯色を呈したりと雖も、猶これを縞にすれども黒まざる、氷潔雪白の光澤は、毫も消滅すること無く時に或ひは燦然として、宇宙の間に耀きつゝありしなり。而して、我が國最初より此方、實に末曾有なる皇運發展の機に際し、世界また長足の進歩を以て、文明の潮流堂々として漲る秋、各種の宗教、哲學の如き、精神禪磨の器械は、我等が身邊を圍繞して、其選擇を促すに似たり。寔に、眞理の淵源に溯り、玄妙の流域に達すべきの好時機にあらずや。然らばすなはち、古を溫れて新らしきを知り、彼れに鑑みて以てこれを定むるは、實に今日の急務なるべきを信ず。希くは、我が親愛なる同胞姉妹の、善く古往今來の女性が、言行の跡を察して、其長を取り短を補ひ、日に益々向上せる、わが國運の進行を内助せられんことを、切に熱望する所なりかし。

●圓滿なる家庭 (高木兼寛氏)

▲法と教へ 家庭の意義をお話し致すと家族の住居する場所と云ふ事と夫れに家族の守るべき法則の附隨してある事を意味して居ると信じます、故に家庭には家族に示すべき法のある事で主人主婦を始めとし兄弟子供婢僕まで此の一貫せる法に従はねばならない、夫れから又家庭には法の立つて居る上に尙教へると云ふ事が必要で之がなければ家庭の圓滿は見られないのです

▲家庭に法の立たぬ爲め 私は醫師の立場から家庭に於ける肉体的と精神的の二つに分けて觀察をするのに現今都會に住んで家庭を作つて居るものや及び物に不自由なく生活して居る家庭の人は實に哀れむべきで不完全なる体格で又必ず夫れが短命に終るのです、人間僅か五十年と云ふが人間は衛生法の宜きを得れば先づ百歳の壽を保つべきものです然るに日本人は統計上平均年齢三十八歳でナカ／＼五十年の齡を保つ事は出来ない、之れを我が同盟國なる英吉利人と比べたら十四ヶ年丈早死するのです同じ人間と生れ乍ら日本人は既に英國人に劣ること十四ヶ年、夫れ故彼等の小兒の体格を比較して見たら何より早く解ります、近年

は日本の小兒も大分体格が大きき手足も伸々として骨格も大くなつて來ましたがまだ々々英國の小兒から見たら劣つて居ます、一生を通じて統計上十四ヶ年の短命であるのは既に小兒の時から之れを明に物して居るではありませんか

女子と洋畫

小林萬吉氏

繪畫を教へて、男子と女子との差はと云へば、第一、女子は大体に眼が届かぬ、第二女子は一本の線でも氣にする、畫面を唯だ奇麗にしたいと苦心する、等三女子に大きな景色を描かせるのは無理である、第四、女子は氣力が強いやうで而も物を科學的に研究する氣力が乏しい、第五、これは男子との比較ではないが、少くも高等女學校卒業した女子でなければ畫に付いての氣持が解らぬ、第六、女子は複雑な畫になると兎ても六つかしい、第七、勿論例外はあるとして今の所日本婦人は先づ其性格に適する優美な小規模の畫を勉強するが適當であらう

（自明治三十九年九月二十二日  
至明治三十九年十月三十一日）報告

氏名

森 岩太郎

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

後閑  
菊野

萱均 久惠

金額 拂込月日

氏名

金額 拂込月日

氏名

金額 拂込月日

氏名

五十

八〇〇 (自五月至十二月) 松浦 しな  
六〇〇 ( ) 長崎幼稚園

(但し市内領收の分は紙面  
の都合により次面に譲る)

入 會

赤坂區青山高樹町  
十二ノ七橋内方 猪狩 めい

小石川區原町酒井家邸内 松枝 さく

山梨縣南都留郡谷村町 原 徴係

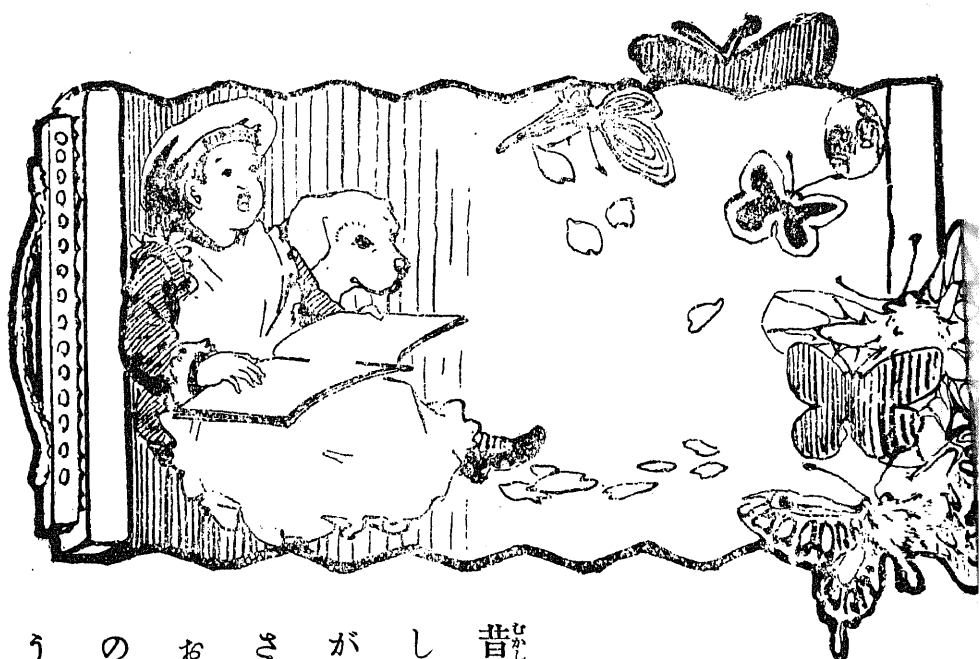
正 誤

十時 とさ 十時 利

十時 とさ 十時 利

五〇〇 (自六月至十月) 用瀬 加代  
六〇〇 (自四月至九月) 吉田仁右工門  
五〇〇 (自八月至十二月) 吉田 まさ  
四〇〇 (自六月至九月) 吉田 すゑ  
五〇〇 (自六月至十月) 高木 ます  
五七〇 (自八月至翌年一月) 高原 直吉  
一、〇〇〇 (自八月至翌年五月) 武井 はつ  
四〇〇 (自九月至十二月) 高橋 しげ  
八〇〇 (自五月至十二月) 園田 きよ  
一、〇〇〇 (自四月至翌年一月) 永島 ヤマ  
三〇〇 (自七月至九月) 永山 香  
一、二〇〇 (自六月至翌年五月) 成田幼稚園  
六〇〇 (自七月至十二月) 武藤 ウメ  
四〇〇 (自九月至十二月) 村尾 まさ  
六〇〇 (自九月至翌年五月) 宇式 かん  
六〇〇 (自四月至九月) 野原 つれ  
四〇〇 (自六月至九月) 桑原 いは  
六〇〇 (自四月至九月) 黒岩 めい  
一、〇〇〇 (自六月至翌年五月) 八坂 さだ  
五〇〇 (自六月至十月) 山田 竹  
九〇〇 (自四月至十二月) 山内 かず  
一、〇〇〇 (自四月至翌年一月) 松田 とし  
一、二〇〇 (至四十二年八月) 横殿 ため

一〇〇 (十月分)  
五〇〇 (自五月至九月)  
七〇〇 (自六月至十二月)  
一、二〇〇 (自五月至翌年四月)  
一、〇〇〇 (自九月至翌年六月)  
四〇〇 (自九月至十二月)  
一〇〇 (九月分)  
二、〇〇〇 (自五月至翌年十二月)  
四〇〇 (自六月至九月)  
三〇〇 (自十月至十二月)  
四〇〇 (自九月至十二月)  
六〇〇 (自四月至九月)  
一、五〇〇 (自四月至翌年六月)  
五〇〇 (自四月至九月)  
一、二〇〇 (自十月至翌年九月)  
一、〇〇〇 (自九月至翌年六月)  
四〇〇 (自九月至十二月)  
五〇〇 (自八月至十二月)  
四〇〇 (自九月至十二月)  
一、二〇〇 (自早年至一月月)  
五〇〇 (自八月至十二月)  
六〇〇 (自早年至一月月)  
一、〇〇〇 (自早年至一月月)  
眞鍋 稻子  
福本 ゆき  
寺島 とく  
安藤 さつ  
阿部 イノ  
淺羽 静枝  
佐々布三生  
木村 米  
木下 やす  
南枝千代の  
鹽見いく代  
島 つれ  
清水常太郎  
平野 みよ  
平井ともえ  
森 乙女  
守永 辰子  
須藤 つれ  
須子 とみ  
鈴木 積子  
池野 ゆき  
林 とみ  
松田 とし



## 弱虫太郎

彌彦

昔々或處に大層な子福者がありまして太郎さんを頭に八郎迄の兄弟がありました。

さて兄さんの太郎さんは誠にくおとなしい子で學校ではよく先生の云ふ事を聞いて勉強しますしおうちに歸ればお父さんといっしょに

畑へも行きますし又お母さんのお手傳に赤ちゃんのおもりもよくし  
ますして又遊ぶにも砂のお山を作ったり附木のお舟を川に浮べた  
りしてそれはおとなしいのです處が次郎さんからの弟どもはどう  
した事か誠にあればやでひまさへあれはお相撲ばかりハツケヨイ  
く取りて居るのです

時は丁度四月の半ば野にはれんげやたんぽぽがうつくしくさき雲  
雀も可愛らしく歌ふうらゝかな日曜に八人の兄弟は打つれ立ちて  
近所の山へ遊びに参りました太郎はいつもの通り一人で花を見た  
り蝶々を追うたりして楽しさうに遊んで居りますと次郎たちは之  
も相かばらずハツケヨイくと掛聲も勇ましく力競べの最中です  
何しろ毎日くして居る事で子供とは云へ皆中々強くて容易に勝

負がつきません次郎は思はず大聲にウーンと力みますと其聲が山の奥迄響いたと見え今しも心持よく晝寢最中の魔王は岩の枕から重さうな頸を上げ

「ア、子ムイ／＼それはそうと今の大聲は何だらふまた小げもの共がけんかでもして居るのだらふどれ／＼一ついつて見ませう」とどしり／＼と出掛けましたいつて見ると思ひがけない可愛らしい男の子たちがおすまふの最中でした魔王は木の蔭から見居りますとやがて次郎か皆をまかしました

次郎はいかにもおれ一人と云ひそのような顔をして

ア、皆んな弱虫だな僕の子指にもかなやしないだらふさあてんだ皆んな一どきにかゝって來てごらん



と云ひますので弟共は皆くやしそうに今度こそは一生懸命一どに前から後からもかゝて來ましたが何しろ年下の者許りですから又次郎が勝になりましたそこで次郎さん又大威張

「どうだいかなうまい 僕程強いものありやしないなお隣のおちさんだってお向ふの兄さんだって何でもありやしないあゝ僕より強い者がいないかしらね三ちゃん」

と弟に話し掛けました三郎はくりくした目で兄さんを見ながら「兄さんそんなに威張たつてだめだ僕たち小さいから負けるのだけれと大人なら兄さんかなうものかそれよりかね兄さん此お山に魔王ってね大變強いゝ人か居るんだとさ此間お父さんそらいたよだからこはいからあんまり威張るのおよしよ

と云ひますと次郎は

「何だい三ちゃん羽虫だな魔王なんて強かないんだよそれより僕の方がよっぽどきつと強いよ魔王こゝへくりやいゝな僕勝て見せるがな」

と力み反って大威張です

之を聞いた魔王は次郎さん中々強いねさあわたしと一つ取らふと云て木の蔭からのそりくとして出て來ました

蔭では威張ったものゝさで見ると一番大きいと思つたお父さんより大きくていかにも強さうなのびびくりしましたが元々負けきらひの次郎の事ですから

「君が魔王かいえちや取らふ」

と一いつて一生懸命かゝて來ましたが何を云ふにも十許りの小供の  
事方々は獸を對手の魔王の事ですからかない様はありません二つ  
三つもみあふ中に次郎は見事投げられてしまいましたがそれを見て  
居た弟は兄さんの負けたのがいかにも口惜しくどうかして敵をと  
ってやりたいと皆んなが一どきに魔王の手と云はず足と云はずと  
り組んで來ましたが次郎にさへかなはない弟たちのどうして魔王  
に出来ないませう見る／＼内に皆まかされてしまいました魔王はカ  
ラ／＼と笑つて

「どうだ次郎さんいくら威張ても此わたしにはとても叶ふまいさ  
ああんまり自慢した罰に之からあたしの家來になつて働くのだ」  
と云ふかと思ふと何も知らず草の上に遊んで居る六郎七郎ども迄

ひよつと手でつまんで又のそりく山奥さして入ってしまいました  
た

そんな事とは夢にも知らず八郎を連れて向ふのお池の方で遊んで  
居た太郎はもを夕方にもなったからおうちへ歸りませうと思つて  
弟たちの居た處へ來て見ますとどうした事が影も形も見えません  
さあ大變どこへいつてしまったのかとまづ大聲で呼んで見ましたが  
返事もないのでどうしたらよいかとだんく奥へと呼びながらさ  
がして行きました  
すると向ふの岩に弟たちが見えますから大變に喜びかけて行つて  
見ますと皆んなしくく泣いて居ますのでふだんから優しい太郎  
はびっくり大急ぎで側へ行き

「あゝよかった皆んなどこへいったかと思つて心配したよさあ早くおうちへ行かうお母さんが待つていらっしゃるから」

と云て居ます處へ向ふから歸つて來た魔王

「お前はだれだいい一番の兄さんかいおとなしそうなよい子だね次郎がさっきあんまり威張つたからまかしてあたしの家來にしたのだ此處に居る弟たちが連れて歸りたければわしと相撲を取つて勝てたら返して上げやう」

と云ひましたが此太郎さんおすまふなど取つた事がありませんか  
らとてもく勝つ處か自分迄又家來にされては其れこそ大變です  
からさすが惻好の太郎の事

「では魔王さん私はまだ弱くてとても貴所には勝てません之れか

ら歸かへって一生しょうけんめい懸命けんめいけいこして強つよくなつて來きますからそをしたら弟あとうたちを返かへして下ください」

と丁寧ていねいに頼たのみました魔王まおうはニコ／＼しながら

「あゝよし／＼勝かてればいつでも返かして上あげる」

と云いひますので太郎たろうはこんだ弟あとうたちに向むかひ

「次じ郎らうさんも三ちゃんも皆みなんなおとなしくしておいで今いまに兄あにさんがつれに來きてあげるからね」

と慰なぐさめて見み歸かへり／＼山やまを出でました

おうちへ歸かへりて此この事ことをお父おとうさんお母おつかさんにお話はなしました處ところおふた

りは大層たいそうお慨なげききなさいますので太郎たろうは

「僕ぼくがきつと敵かたきをとつて皆みなんなを取返とりかへしますから」

と申しますのでふだんおとなしい太郎の事どうかしらとは思ひながら少しは安心して居られました

それからと云ふ物は學校へ行つてはお友達を相手に相撲を取りうちに歸てもひまさへあれば力のつくやうな遊び許りをして居りました

さて其内に月日はどんくたつて美しい櫻も葉となり蟬もなき蜻蛉もそろく見え始めましたある日の事朝からカンくと照つて中々の暑さだものですから太郎は裏の川へ水遊びに参りました暫くボチャくと楽しく遊んで居りますと川上の方から太い長い材木がごろりく流れて來るのです太郎はびっくりもしあれにあたれば大變と思つたものですから大急ぎで岸へ上らふとしますと

頭あたまの上うへで

「太郎たろうの弱虫よわむしく あほーく」

と云いふ聲こゑが聞きこえます何なにかしらと上うへを見みましたが別べつに何なにも居ゐませんので岸きしへ手てを掛かけますと又またさっきより大聲おほきこゑで

「太郎たろうの弱虫よわむしく あほーく」

と云いひますそこで太郎たろうも少すこしくやしくなり笑わらはれてたまるものと今度は自分じぶんから材木ざいもくの方ほうへ進すすんで行ゆき流ながれて來きたのを兩手りやうてでウンと押おへました處ところが不思議ふしぎにわけもなく其その大おほきな木きが持上もちありましたので太郎たろうは自分じぶん乍ながちらひっくりし

「僕ぼくはいつの間まにこんな力ちからが出でたのだらふ之これならも少すこしで弟あにいたちをつれに行ゆかれるな」



とうれしそうに獨り言して其材木を岸へあげ又余念なく泳いだり  
 何かしてやがて歸らふとして居ますと向ふの方から大きな水音を  
 ゴー／＼させて見上るやうな石が流されて來ます太郎さん今度こ  
 そあれにぶつかったら大變といそいて陸へ上らふとしましたが其  
 内に石はどん／＼流れて來てもを今にも太郎を押つぶしそうにな  
 りましたのでこをなつては一生懸命力一ぱい大手を廣げて其岩を受  
 けて見ました處が又不思議わけもなく其岩が止つてしまひました  
 太郎は命が助かったので大喜び早くうちへ行きませうとして着物を  
 を着て居ますと後から

「おゝ太郎さんお前は此間から弟等を助けやうと思つて一生懸命  
 力を出したので大層強い子になつたもをそれなら魔王にも負け

やしない」

と云ふ聲がしますのでふりかへって見ますと眞つ白なひげのある立派なお爺さんが居たかと思ふと見えなくなつてしまいました太郎はびっくりしながらも今の云はれた事がうれしく飛ぶやうにしておうちに歸りけふの事をお父さんにもお母さんにもお話しますとおふたりとも大層なお喜び

「お前が一生懸命にけいこしたのでこんなに強い子になれたのですでは早く行つてみんなを連れていらつしやい」

とおつしやいますので太郎も喜び勇んで其お山へと出掛ましたやがて此間の岩の處へ行きましたから大きな聲で

「魔王さんく太郎が参りました」

と二三度申しますと岩の中から魔王がのそりく出掛けて來ましたので早速二人は取組を始めました魔王の方ではわけもなく負して又家來にしようと思つて居りましたが中々強くてく容易に負けそうにもしません其内魔王もだんくくたびれて來ましたので「太郎さんお前は中々強くなつて來たでは七郎だけ返すからをやめやうぢないか」

と云ひましたが太郎今度は中々に承知しません「僕まだ何ともありません皆を返して下らない内はいやですさあもつとしませう」

と云つて掛けて來ますので又暫くハツケヨイくとやりましたが又魔王はつかれましたので

「では六郎も返すから今日は之でやめやうぢやないか」

と云ひましたが太郎は

「いやですく皆を連れなくてはおうちへ歸らないのですさあしませう」

と云ひながら又どんくと掛けて來ますので魔王も少し腹を立て一生懸命負かさうとしますがどうしてく中々です反って魔王の方<sup>ほう</sup>が負けそうなので

「ぢや五郎も四郎も二人とも返すからやめにしよう」

と云ひ出しましたが太郎いつになくけふは承知<sup>しやうち</sup>しませんそこで苦王<sup>わう</sup>もとうく仕方なく

「では皆を返してあげるからもをやめやう」

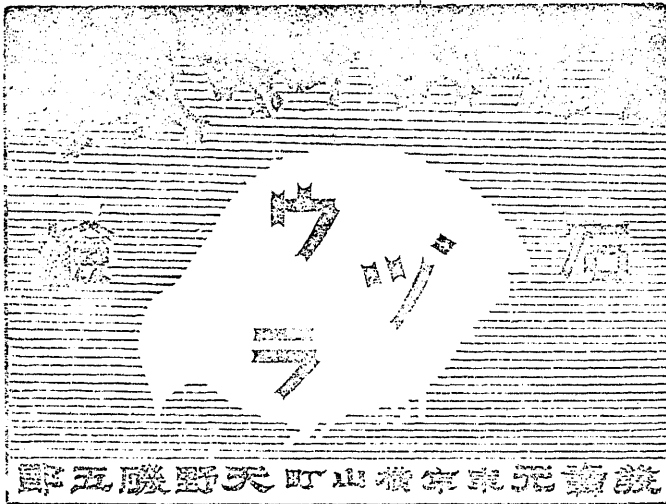
と云ひました太郎は始めてニコく

「それならもを止めませうさあ早く皆を返して下さい」

そこで魔王は六人の可愛い家来たちを太郎に取返されてしまひました太郎の喜は一通りではありません久しぶりです皆と一所に手を引あつておうちへ歸りましたのでお父さんもお母さんも大層な喜び又元の様に賑やかにたのしくお父さんの頸にかちりつく三郎おかあさんのお膝へ抱かれる六郎皆うれしさうに久しぶりでお母さんニコくお笑いになりました

之も皆太郎が兄弟を思ふ心の深かったからで何でも一生懸命になれば出来ない事はありません其からは次郎もあまり威張らなくなりましたとさ おしまひ

質品るな良純



香の香麝るな良佳

# 教育家の必讀書

## ▲ 晩近の新作 ▼

醫學博士 瀨川昌著先生校閱  
福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生  
長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生  
合著

### 小學生救済の原理及基法

#### 好評五版發賣

洋裝菊判形全一冊(正) 價金六十錢  
郵税金六錢

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救済法たる實濟的攻究とに關し曾て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大早に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產出物と見る可きものなり乞ふ左の條記に依て本書の價値の一斑を推知せられよ

△本書は先づ劣等生の意義を確定し之が救済上の教育的可能を論せり

△本書は劣等生に關する各種の原因を詳に探究し之に對する教育的取扱法を極めて實際的に説述せり

△本書は劣等生救済に關する教育的任務と醫治的任務との區別を明かにせり

△本書は劣等生救済法としての人格變換論を説述したり

△本書は劣等生取扱法に關する諸方案并に特殊教授法及各教科目につき教授上の實驗的注意を詳述せり

發 兌 東 京 京 橋 區 南 大 工 町 一 弘 道 館





學習院女學部長 下田歌子女史新著

# 女子の修養

洋装全一冊  
頗る美  
正價金七拾錢  
郵税金八錢

  
廿世紀女子教育の生粹  
新家庭經營整理の寶鑑



福岡日日新聞批評

此書は著者が女子の修養に資すべき教訓を感ずる折々書き止め置きたる隨筆體のものを今回刊行するに當り順序よく目次を定めたるものなり章を分つて十、少女の心得、小婦の心得、母親の心得、戦後婦人の心得、繼母と繼子と、姑母と小姑、婢女の心得、都會の女子と地方の女子と、教ふる人と教へらるゝ人と、應接と交際と等々の山來著者は多年女子教育に従事し女子の性情と女子訓練の經驗とを知悉し、軌近の思潮に接觸せざるは博學多能の秀才なるは人の知る處、此著亦著者が最も得意とせる女子處世の秘訣を述べたるものなれば吾人は此健實なる著を世人に紹介するを喜ぶものなりとせる此等堅くなく、教訓を述べたるに雅馴溫籍なる才筆を以てしたれば好個の女子作文參考書として座右に呈するに足る篇中多く實例を示せるは當を得たるもの其引證や該博其比喩や適確、其思想や穩健、而して其文章を咀嚼し流暢にして華麗なり紙數總じて一百八十五頁總クロース彩畫摺込頗る美麗なる書なり(定價七十錢、東京京橋區南大工町弘道館)

發兌元

東京京橋區南大工町一番地

弘道館

電話本局二八四番

後付の四

賣捌店は全國到處有名書籍店にあり

# 好評嘖々る遊戯書

廣島高等師範學校教師吉田信太先生作曲  
廣島高等師範學校教師原藤藏先生作技

(好評七版發賣)

○近刊本書、類似の者刊行有之購求者は著者名と發行者名の注意を乞ふ玉石混する勿れ

國定讀本

## 唱歌遊戯教授書

洋裝菊版  
色クロス  
無類の美本

尋常科の部 全一冊 正價金八拾錢 郵稅拾錢 高等科の部 全一冊 正價金八拾錢 郵稅拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新光明を發はさん教育家は

▲讀め……訓育上、體育上、効果顯はさん教育家は

▲讀め……戰後に於る勇健の國民を養成せん教育家は

尋常科第五版第六版購求者に票告す

曩に發行せし第五版第六版は弊館印刷所三協合資會社に印刷せしめ既に賣切の處其后該兩版の内間々間違あるを發見致候に付右訂正之爲先般來著者に乞ふて精密なる修正を遂げ今般修正第七版を發行仕候に就ては右第五版第六版御購求せられし方は御郵送被下候はゞ早速御取替可申此段稟告仕候也

後付の五

館道弘 一町工大南區橋京京東 番〇四八二局本話電 所行

# 大好评の々新刊書

◎再版 ◎文學博士 姉崎正治先生著  
**國運と信仰**  
 洋裝四六判形美本  
 全一冊價一圓  
 郵税十錢

◎新刊 ◎東洋大學講師 文學士 北澤定吉先生著  
**哲學史綱**  
 洋裝菊判形全一冊  
 正價九十錢  
 郵税十錢

◎再版 ◎文學士 北澤定吉先生新著  
**偉人耶蘇**  
 洋裝菊判全一冊  
 正價金七十錢  
 郵税八錢

◎再版 ◎伊藤銀月君著  
**子の半面**  
 洋裝菊判新式意匠  
 正價金七十五錢  
 郵税八錢

◎新刊 ◎男爵金子堅太郎先生著  
**日本教育の將來**  
 菊判形全一冊  
 價二十錢  
 郵税四錢

◎新刊 ◎文學士 遠藤隆吉先生著  
**虛無活談主義**  
 菊判全一冊  
 正價四十錢  
 郵税四錢

◎新刊 ◎農科大學助手山崎德吉先生共著(密圖十數)  
**養蠶教授指針**  
 菊判形全一冊  
 價正二十五錢  
 郵税四錢

◎新刊 ◎伊藤眞一郎先生著  
**長壽論**  
 菊判形全一冊  
 正價廿錢  
 郵税四錢

◎新刊 ◎白土千秋先生 阿部清見先生共著  
**算術教材資材**  
 上卷五十錢 下卷六十錢  
 △尋常科用  
 洋裝菊判 全二冊  
 郵税各八錢

◎再版 ◎學海隱士著  
**受驗術**  
 ハイカラ形全一冊 洋裝  
 正價金三十錢  
 郵税四錢

◎新刊 ◎農學博士 横井時敬先生著  
**農業振興策**  
 菊判形全一冊  
 正價三十八錢  
 郵税四錢

◎近刊 ◎文學博士 元良勇次郎先生著  
**心理學綱要**  
 洋裝菊判 全一冊  
 正價金

後付の六

發行所 東京電話 本局 橋區 南八丁 大工番 弘道館

# カノコ

## 百號 紀 念 號

十一月一日發行

●定價二十五錢郵稅二錢

編輯主幹

佐々木信綱

●朝 寢  
●爪 の 血  
●母 の 血  
●民 謠 論  
●學 者 の 筆 迹  
●秋 の 歌  
●悲 劇 心  
●喜 劇 心  
●劇 橫 着 女 房  
●小 曲  
●も ず び 音

森 幸 田 露 伴 外  
小 栗 風 葉  
芳 賀 矢 一  
萩 野 由 之  
蒲 原 有 明  
藤 澤 古 雪  
水 上 夕 波  
上 田 敏  
大 塚 楠 緒 子

●鴻巢盛廣 ●小山内八千代 ●長壽吉 ●川田順 ●石樽千  
亦 ●片山廣子 ●しぐれ女等の作趣味津々たり

發行所 日本橋區本町一ノ四三〇(竹柏會出版部)

# 家庭に於る少年の唯一の讀物

女子高等師範學校教授東基吉先生著

## 日曜讀本

四十餘個  
菊美本  
形判

全一冊定價十五錢

少女雜誌曰くこれわ、幼年用の讀本である。娯樂の内に讀書力と知識とを養う仕込に出來て居る。多趣味で、西洋風な、好い本である。

▲未曾有の珍本である

前東京高等師範學校教授 樋口勘次郎先生著

## 強い日本

口繪尾竹  
國觀○一  
條成美、  
插畫

全一冊 正價金十錢 郵稅四錢

樋口勘次郎先生著 國觀春汀畫

## 日本の覺悟

▲菊判形  
頗ル美本  
口繪挿畫  
十數個入

正價金十五錢郵稅四錢

▲戰勝紀念少年  
の有益なる讀物

後付の八

樋口蘭林先生作○宮川春汀口繪挿畫

## 歴史熊襲征伐

全一冊 正價金十錢郵稅四錢

樋口蘭林先生作 ○宮川春汀畫

## 歴史入鹿退治

菊判形

全一冊口繪挿畫六葉挿入價十五錢郵稅四錢

△これまで類のない珍本である

△家庭でも學校でも芝居が出來

て面白き本

盛岡農林學校教授農學士吉村清尙先生著

國觀○禾 月畫口畫

## 米の話

全一冊

△菊判頗ル美本口繪十數度採色石版挿畫十數個  
定價十五錢

發行元 東京電話 橋本區南大工町一丁目番地 弘道館

家庭に於ける智識な  
くは、**保育**の効完  
到底する能はず

第二卷第拾壹號十一月一日發行

# 明治の家庭

一册六錢  
半年三十三錢一年六十  
錢振替貯金六六五番

●お、りりし(佛國名畫)口 繪

●家庭の權利は主人六分

に妻は四分 鳩山博士夫人談

●修養(大西郷翁)逸事 謙 哉

●涙の五とせ 菅 瑩

●買物自慢會 千葉好子

●火傷をした時 ドクトル 町田泰生

主人も先に寝る妻君の可否の批評會 十大名家  
女性を帶びた男子の癖を直した實話 東洋幼稚園長 岸邊福雄

●子供の育て方 (質問隨意)

▲牛乳のみは害か ▲少食の兒 ▲胎兒の動悸 ▲頭の汗 ▲乳の副食物 ▲玩具につき

●玩臭にあかさね新工夫 三島幸子

●軒下にも作られる野菜 自警庵主人

●炭薪は如何に焼くべきか 村上初枝

●むつきの臭氣止めの妙藥 内川豊松

●よろづ問答 (質問隨意)

▲蚊 虫 ▲料 理 の 善 本 ▲モナカの皮は何か  
▲多汗症の手當法 ▲油山の治退 ▲善き女學の講義  
▲小便の治法 ▲シヤツ黒しみの説明 ▲糖漿の効能  
▲木を接く膏藥 ▲サツホー洗粉 ▲食パンの製法  
▲肥瘠の比較 ▲盗汗は朝 ▲指先きのサカモメ  
▲老人衰弱の手當法 ▲健胃劑の調合法 ▲頭痛と鼻血の手當法  
▲頭を洗ふは水か湯か ▲胃擴張 ▲イグとユクの讀み方  
▲髪洗の皮剥き法 ▲養親の本 ▲丸炎の療法  
▲白ナマヅの神經衰弱 ▲七男の神當 ▲イグとユクの讀み方

●懸賞短文 (當撰披露)

●玉葱は如何に料理すべきか 櫻井朋子

●馳走天狗 (誰か賞品を)

●献立問答 (誰か賞品を)

●か愛い話 (天真爛漫とは真にこれ)

●子供が食事の時話をする可  
否につき讀者の意見を求む

●お伽噺懸賞募集 (金拾圓)

發行所 東京牛込町六丁目 明治の家庭社 發賣 日本橋區本町三丁目 寶文館 (電話三三三)

本書は斯道の大家として世に識られたる小出先生が一世一代の事業として筆を採られたるものにして、啻に材料の豊富なるのみならず其説明の親切にして正鵠なる斯道の参考書として古今無比の良書であります。

●豫約申込期限は十二月二十日限りの事

女子裁縫高等學校長小出先生著

和洋裁縫大全

本編貳拾七冊  
續編參冊  
計參拾冊

●●豫約金は十二ヶ月間に割附拂の事  
●●豫約方法并に主要項目入用の向は

豫約方法并に主要項目入用の向は申込次第進呈す

約 豫  
所込申

東京堂  
東枝律書房

東京 前川書店 大塚 久寶寺 坂積善館 廣島 鹽屋 本文書店 仙臺 大町

京都 寺佛光 宇都宮書店 金片 澤博 向堂 福島 本町 久保田商店 東京 神田

豫發行  
約申込  
所所

女子裁縫高等學院出版部

東京市青山原宿貳百九番地（振替貯金口座番號壹貳九五）

後付の十

勸めの言葉皆さん御  
讀みなさい今より向  
ふ一ヶ年の間一日僅  
かに三錢三厘づゝ貯  
蓄なされば此得難ひ  
處のしかも三拾冊と  
云ふ大著書を易しく  
買ひ求むる事が出來  
ます實に子孫永遠の  
寶典で御座います是  
非御奮發なさいませ

●からだよわき人例へば性來虛弱にて瘦せ細り或  
 ●は病後の衰弱。老衰。貧血症。神經衰弱。心臓  
 ●動悸。息切れ。肺病。婦人血の道。殊に産  
 ●後の經過不良症。其他氣力減乏症。平素身體薄弱

服用し易き美味の良薬



の爲め病に罹り易き人。過度に身體或は精神を費  
 す人等は此「大木五神」を採用して見給へ  
 ▲薬價 五十銭 廿五日分二圓十五日分一圓七角五分  
 五十銭 四日分三十銭二日分十五銭

本舗 東京兩國米澤町 大木口哲本店  
 發賣 東京神田鍛冶町 大木合名會社  
 ●全國藥店にあり大木五神圖に注目を乞ふ

# 會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通  
 り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月分  
 かを纏めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館  
 へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌  
 は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌  
 だけ讀みたい方は左の割合で矢張全館へ御注文下  
 さす、  
 一冊金拾錢六冊前金五拾七錢拾貳冊金一圓拾錢  
 外に郵税一冊五厘づゝ

明治卅九年十一月一日印刷  
 同 年十一月五日發行

禁轉載

編輯者 印刷者 發行所

發賣元

弘道館

女子高等師範學校内

辻本卯藏  
 東京市京橋區南大工町一番地  
 日下主計  
 東京市神田區錦町二丁目十九番地  
 フレール會

大賣捌 東京  
 廣告取次 神田

東京堂  
 東京市京橋區南大工町一番地  
 (電話本局二八四〇)  
 大阪盛文館  
 弘業社



中村不折畫伯家庭樂三版口繪插畫  
 四六判形洋裝函頗入美本紙數百七十六餘頁舶來上等紙摺  
 壹萬部限特價九拾錢 郵稅五十錢  
 滿數後斷然正價一圓三十錢に復す

家庭辭書



館道弘 一町工大南區橋京京東 所行發  
○四八二局本話電